

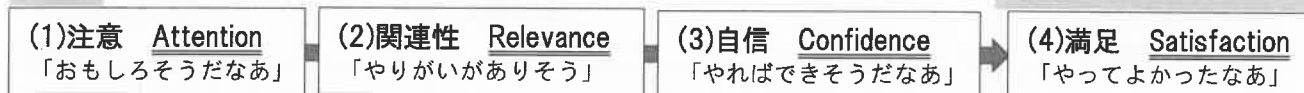
ID : インストラクショナル・デザイン入門

それぞれの環境において、最適な教育効果をあげる方法を設計するためのヒント

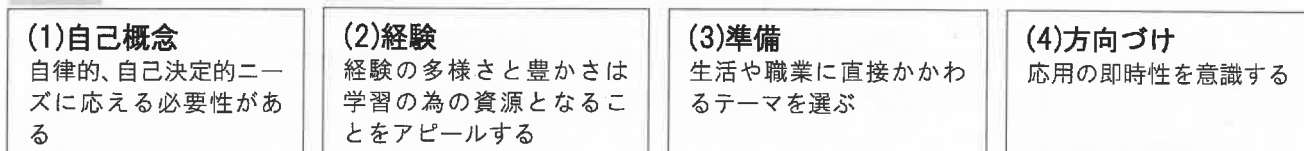
【鈴木克明監修「インストラクショナルデザインの道具箱101」(ページ)・「学習設計マニュアル北大路書房」(章)】

TOOL 1 学習意欲を高める作戦 (ARCS モデル) ・ 16 p

学習設計マニュアル第11章



TOOL 2 大人の研修のための作戦 (アンドラゴジー Andragogy) ・ 28 p



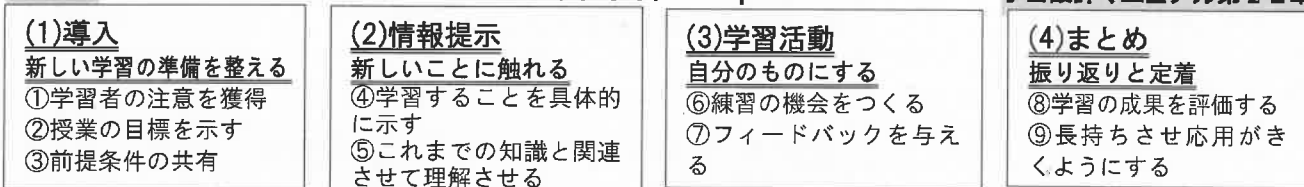
TOOL 3 授業設計の原則 (メリルの ID 第一原理) ・ 40 p

学習設計マニュアル第15章



TOOL 4 学習プロセスを助ける作戦 (ガニエの9教授事象) ・ 44 p

学習設計マニュアル第12章

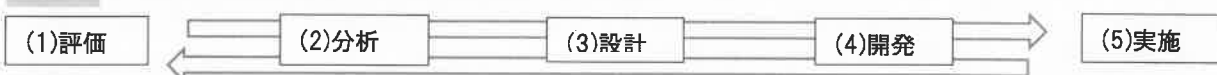


TOOL 5 同じ課題で学習者の成績の差が大きいとき (キャロルの学校学習の時間モデル) ・ 86 p

$$\text{学習率} = \frac{\text{学習に費やされた時間}}{\text{学習に必要な時間}} = \frac{\text{学習機会} \times \text{学習持続力}}{\text{課題への適性} \times \text{授業の質} \times \text{授業の理解力}}$$

学習設計マニュアル第9章

TOOL 6 活動全体の振り返り (ADDIE モデル) ・ 116 p

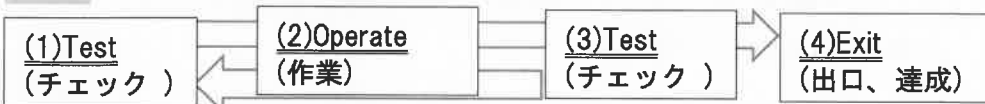


TOOL 7 授業設計を有効に行うための指針 (メーガーの3つの質問) ・ 154 p

学習設計マニュアル第13・14章

- (1) 学習目標～Where am I going?
- (2) 評価方法～How do I know when I get there?
- (3) 教授方略～How do I get there?

TOOL 8 学習レベルがばらついている場合の対応 (TOTE モデル) ・ 162 p



TOOL 9 指導方法や評価方法の整理 (学習成果の5分類) ・ 166 p

学習設計マニュアル第14章

	学習成果	成果の性質	行動動詞
認知的領域	言語情報	暗記、再生的学習	述べる、言う、説明する、あげる
	知的技能	規則を適用する	応用する、適用する、分類する、区別する、解く
	認知的方略	自分の学習を効果的に行う	採用する
運動領域	運動技能	身体を動かす、コントロールする	行う、実現する
情意領域	態度	ある物事や状況を選ぶ	選ぶ、主体的に〇〇する、拒否する、他の活動を選ぶ

TOOL 10 評価を計画 (4段階評価モデル) ・ 196 p

レベル	評価内容	評価対象
(1) 反応 (Reaction)	参加者の反応	受講者アンケート
(2) 学習 (Learning)	理解度確認	事後テスト、パフォーマンステスト
(3) 行動 (Behavior)	学んだことが実践できているか	フォローアップ調査、上長アンケート
(4) 結果 (Result)	組織の業績に貢献できたか	効果測定チェックリスト、ROI 指標

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 国語 氏名 _____

本時の見せどころは、漢詩の魅力を堪能する。

授業実施日：令和3年12月17日

視点		記述欄
科目名		国語総合（漢文）
出入口	1 生徒	① 所属 理数科1年S組 ② 人数 40人（男子26人、女子14人） ③ 特徴・ニーズ 理系ではあるが、国語に関しては積極的に取り組んでいる。基礎基本をもう少ししっかり習得させる必要がある。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 漢詩のきまり（詩型、押韻、対句等） 次にどこで使いますか 3年次の古体詩等
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法（C/Eの問い、指導方法、展開）	① 題材 唐詩「黄鶴楼送孟浩然之広陵」 ② C/Eの問い 「この漢詩からうかがえる作者の心情はどんなものか？」 ③ 単元計画 (1) 唐詩「春暁」 (2) 唐詩「黄鶴楼送孟浩然之広陵」（本時） (3) 唐詩「春望」 (4) 唐詩「香炉峰下～」 ③ 方法 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実演 <input type="checkbox"/> 実習 ④ ICT <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> タブレット <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクター
出口・評価	4 教員の評価の方法	① ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> Extensions（応用、活用）： 作者の作成時の心情を漢詩の表現から把握し理解する。 <input type="checkbox"/> Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 定型詩の持つ簡潔な構成や言葉の持つ意味の広がりなどからイメージを膨らませることができる。 <input type="checkbox"/> Ideas（知識、技能の習得）： 漢詩の基礎基本を理解している。 ② 方法 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> 定期考査、 <input type="checkbox"/> レポート、 <input type="checkbox"/> シート提出、 <input type="checkbox"/> 実技テスト
	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★☆ ★★☆☆ ★★☆☆
生徒の自己評価	6 リフレクションの方法	自分の考えを全体で発表する。
	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions（応用、活用）： 作者の作成時の心情を漢詩の表現から把握し理解できたか？ <input type="checkbox"/> Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 定型詩の持つ簡潔な構成や言葉の持つ意味の広がりなどからイメージを膨らませることができたか？ <input type="checkbox"/> Ideas（知識、技能の習得）： 漢詩の基礎基本を理解できたか？
継続	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	生徒の発表の内容及び定期考査の答案を参考にする。
	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 国語 氏名

授業実施日：令和 3 年 7 月 日

本時の見せどころは・・・ 歌道について理解できたか

視点		
科目名		古典 B
出入口	1 生徒	①所属 普通科 3 年 3 組 ②人数 44 人 (男子人、女子人) ③特徴・ニーズ 国語への興味関心が高い。課題は深い読解力
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 古今集から新古今和歌集にいたるまでの歌道の流れ 次にどこで使いますか 和歌を含む文章を「早く」「精確に」読解する場面
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/E の問い、指導方法、展開)	①題材 「鷹狩りの歌」 (『俊頼髓脳』) ②C/E の問い 「当時の歌人たちのものの捉え方、考え方を知ろう」 ③単元計画 (1) 「歌論」について理解する。全体の通読。 (2) 前半の読解 (3) 後半の読解 (本時) (4) 全体のまとめ (歌道についての理解、人物像の把握) ④方法 ■講義 ■演習 □グループワーク ■実演 □実習 ⑤ICT □実物投影機 ■タブレット □
	4 教員の評価の方法	①ICE に当てはめると？ □Extensions (応用、活用) : 当時の歌人の評価を現代における評価と比較する □Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 登場人物の言動やその意味を、本文の精確な読みに基づいて理解している □Ideas (知識、技能の習得) : 基本的語彙や文法事項が身につけている ②方法 ■小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★☆ きわめる力 ★★★☆ つなげる力 ★★★☆
	6 リフレクションの方法	小テスト並びに定期考査
生徒の自己評価	7 ICE モデルに当てはめると	□Extensions (応用、活用) : 歌道におけるものの捉え方と現代における捉え方と比較できたか？ □Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 歌論について理解できたか？ □Ideas (知識、技能の習得) : 基本的語彙や文法事項を身につけることができたか？
	8 この授業での振り返教員のリフレクション	小テスト並びに定期考査により確認する
継続	9 工夫の根拠 ID モデルに当てはめると？	TOOL 4

※日本教育工学会 FD セミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015) に、ID モデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

教科：[国語] / 科目名：[現代文] / [3] 学年対象・[3] 単位	
出題する考査	[1] 学期 [期末] 考査
該当する単元等	「檸檬」 梶井基次郎
出題意図 (レベル)	(1) Cフェーズ 主人公の丸善での行動に至るまでの状況や心情を正確に読み取り、推論した。 (2) Eフェーズ 実際に本校図書館の一角を丸善に見立てて、「檸檬の爆弾」を作成し、感じたことをまとめて意見を出し合った。
<p>【二】</p> <p>問5 空欄 <u>A</u> に当てはまる語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。 ア 沈黙 イ 誇張 ウ 緊張 エ 凝縮</p> <p>問6 傍線部⑤「私は変にくすぐったい気持ちがあった」とあるが、このような気持ちがあった原因として適当なものを次の中から二つ選び、それぞれ記号で答えよ。 ア 自分の行為の奇妙さへの自覚 イ 丸善の持つ雰囲気への違和感 ウ 街へ出たことによる安堵感 エ 行動することへのためらい オ 密かなたくらみをするときの心の踊り カ 丸善との一体化による興奮</p> <p>問7 本文中での檸檬の意味について説明したものとして適切でないものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。 ア 冴え返った色彩で周囲に調和と緊張感をもたらす存在である。 イ 善と美の象徴で、「私」の生を変革させる起爆剤のような存在である。 ウ 美しい色彩と形で「私」の心を和ませ、元気づける存在である。 エ 「私」の過去を否定しつつ、明るい未来を約束している存在である。</p>	
採点基準 (配点)	問5 3点 問6 2点 問7 3点 ※考査にいたるまでの授業において、主人公の丸善での行動に至るまでの状況や心情を正確に読み取り、推論した。平常点として評価に加えている。
備考	※考査にいたるまでの授業において以下の活動を行った。 本校図書館を丸善に見立てて、教科書の該当箇所を代表生徒が音読して皆で状況を再現しながら、実際に「檸檬の爆弾」を作成した。そして、その場で各人が何を感じたかをまとめ、意見を出し合った。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 地理 氏名

授業実施日：令和3年7月 日

本時の見せどころは・・・風の吹き方を EARTH サイトで視覚化する

視点		
科目名		地理 A
出入口	1 生徒	①所属 普通科2年1・3組 ②人数 40人(男子〇人、女子〇人) ③特徴・ニーズ 地理的事象に興味関心が高い。授業中は静かに聞いている。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 風がどのように吹くか 次にどこで使いますか 世界の農業
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 気候 風 ②C/Eの問い 「日本周辺を参考にして、インド周辺の風向を考えてみよう。」 ③単元計画 (1) 気候要素・・・気温 (2) 気候要素・・・風(本持) (3) 気候要素・・・降水 ④方法 ■講義 □演習 □グループワーク □実演 □実習 ⑤ICT ■実物投影機 ■タブレット □ ○○○・・・、○○○・・・
出口・評価	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ □Extensions(応用、活用)： インド周辺の風の吹き方を予想し、考えることができる。 □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 日本周辺でどのような風が吹いているか考えることができる □Ideas(知識、技能の習得)： 風がどのように吹くか理解している ②方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト (○○○・・・<具体的な特徴があれば記述する>)
	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★☆ ★★☆ ★★☆
生徒の自己評価	6 リフレクションの方法	地図帳や資料集を見る
	7 ICEモデルに当てはめると	□Extensions(応用、活用)： インド周辺の風の吹き方を予想し、考えることができたか？ □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 日本周辺でどのような風が吹いているか考えることができたか？ □Ideas(知識、技能の習得)： 風がどのように吹くか理解しているできたか？
継続	8 この授業での振り返教員のリフレクション	世界全体で季節風がどのようなところで吹いているか理解できたか。
	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	

地理A

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 倫理 氏名 _____

授業実施日：令和3年12月7日

本時の見せどころは・・・自然や風土の違いは、そこに住む人々の考え方に大きな影響を与えている。

視点		記述欄
科目名		倫理
出入口	1 生徒	①所属 普通科2年2組 ②人数 45人(男子20人、女子25人) ③特徴 予習した上で積極的に発問し、教科書を読み取る力をつける。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 簡単な英訳力。キリスト教やイスラム教など一神教の考え方。また、中学校時に学んだであろう日本のモンスーン気候の特徴。 次にどこで使いますか 日本人のものの考え方の基本になるテーマであり、これ以後の「日本人の倫理」を学習する際、さまざまな場面で振り返る。
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 日本人の宗教観 日本人の精神風土 ②C/Eの問い 「日本のような自然風土においては、人はどのような性格をもつようになるか？」 ③単元計画 (1) 日本人の精神風土(本時) (2) 八百万神～神々の共存 (3) 清さへのあこがれ～日本人の倫理観 ④方法 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実演 <input type="checkbox"/> 実習 ⑤ICT <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input checked="" type="checkbox"/> タブレット <input type="checkbox"/> _____
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用)： 日本人のものの考え方には、たえず外国の思想を取り入れ、それを日本の精神風土にあうように独自に変容させつつ共存させながら、その内容を豊かにしてきたことを考察させる。 <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 和文と英文を比較しながら日本語の特徴を、また『古事記』と『旧約聖書』を比較しながら日本人のものの考え方の違いに気づかせる。 <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得)： 『古事記』の国生み神話を音読したり、和辻哲郎の『風土』の内容を理解したりする。 ②方法 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> 定期考査、 <input type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> プリント提出、 <input type="checkbox"/> 実技テスト
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★☆ ★★☆☆ ★★☆☆
	6 リフレクションの方法	授業の事前プリントの完成(①「おのずから」の働きとはどのようなことをいうか ②『古事記』と『旧約聖書(創世記)』に描かれる神の違いは何か ③モンスーン型の風土では人はどのような性格をもつようになるのか、また他の風土ではどのような性格をもつのか)
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用)： 日本人のものの考え方の特徴について考察できたか？ <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 和語と外国語、多神教と一神教との違いに気づいたか？ <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得)： 「おのずから」の働きの意味と、発想と風土との関係を理解できたか？
	8 この授業での振り返り 教員のリフレクション	授業プリントを回収し、生徒の感想や反応を参考にする。
継続	9 工夫の根拠 IDモデルに当てはめると？	ARCSモデル

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

教科：[公民] / 科目名：[政経] / [3] 学年対象・[2] 単位																						
出題する考查	[2] 学期[中間] 考查																					
該当する単元等	日本の選挙制度の問題と課題																					
出題意図 (レベル)	問3 Cフェーズ 問4 Cフェーズ 問5 Eフェーズ																					
<p>問3 下線部②の特色について適当なものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。</p> <p>ア 小選挙区は、大選挙区と比べて、ゲリマンダーの危険性が小さい。 イ 小選挙区は、大選挙区と比べて、死票が多くなる。 ウ 大選挙区は、小選挙区と比べて、二大政党になり政治が安定する。 エ 大選挙区は、小選挙区と比べて、選挙費用が少なくなる。</p> <p>問4 下線部③について、比例代表制の選挙で、各政党が下のような得票数であったとき、A政党の獲得議席数を答えなさい。ただし、定数は6名で各党とも3名の候補者を立てている。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>政党名</td> <td>A党</td> <td>B党</td> <td>C党</td> <td>D党</td> </tr> <tr> <td>得票数</td> <td>600票</td> <td>1000票</td> <td>220票</td> <td>800票</td> </tr> <tr> <td>候補者数</td> <td>3名</td> <td>3名</td> <td>3名</td> <td>3名</td> </tr> </table> <p>【E】問5 下線部④について、「連座制」について説明しなさい。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>I</td> <td>基本的用語を説明している</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>何が社会問題なのかを理解している</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>社会問題を踏まえて、社会一般に対する影響について考察している</td> </tr> </table>		政党名	A党	B党	C党	D党	得票数	600票	1000票	220票	800票	候補者数	3名	3名	3名	3名	I	基本的用語を説明している	C	何が社会問題なのかを理解している	E	社会問題を踏まえて、社会一般に対する影響について考察している
政党名	A党	B党	C党	D党																		
得票数	600票	1000票	220票	800票																		
候補者数	3名	3名	3名	3名																		
I	基本的用語を説明している																					
C	何が社会問題なのかを理解している																					
E	社会問題を踏まえて、社会一般に対する影響について考察している																					
採点基準 (配点)	<p>問3 解答はイ I：「死票」や「ゲリマンダー」の意味を理解していること C：小選挙区制と大選挙区制の違いを理解していること</p> <p>問4 解答は1人 C：ドント方式による計算ができること（思考力） C：与えられた条件の下での当選者を確定できること（判断力）</p> <p>問5 〈解答例〉選挙運動員が公職選挙法に反する行為をした場合に、その候補者自身の当選を無効にし、その候補者を同じ選挙区から一定期間立候補できなくする制度のこと I：公職選挙法違反であることが押さえられている C：選挙員の有罪が確定すればその候補者自身の当選が無効になる E：その候補者が同じ選挙区から一定期間立候補できなくなる</p>																					
備考	<p>【考查前指導】</p> <p>(1) 教科書や資料集を使って、基本的な内容を理解させる (2) 新聞記事などを利用して、実際に起こった事件を紹介する</p> <p>【考查後指導】</p> <p>(1) できなかった問題の復習をする (2) 関連する小論文問題などに取り組みさせる</p>																					

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 数学 氏名

授業実施日：令和3年7月19日

本時の見せどころは・・・ タブレットを使用して班で議論しながら
最大値・最小値の場合分けについて考えること

視点		
科目名		数学Ⅱ 「微分・積分」
出入口	1 生徒	①所属 普通科2年7組 ②人数 40人(男子23人、女子17人) ③特徴・ニーズ とても賑やかなクラスではあるが、話をする人としていない人がわかる。数学Ⅲに繋がる内容として熱心に学習に取り組んでいる。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか ・増減表やグラフをかく手順。 ・二次関数で学習した定義域や軸が変化するときの場合分けの考え方 次にどこで使いますか ・数学Ⅲなどで学習する最大値・最小値の応用問題
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 3次関数の最大値・最小値の応用問題 ②C/Eの問い 「定義域や極値を取るxの値が変化するときの最大値・最小値は？」 ③単元計画 (1)第1節 微分係数と導関数 (2)第2節 関数の値の変化 (3)第3節 積分法 (4)節末問題等の応用問題(本時) ④方法 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実演 <input type="checkbox"/> 実習 ⑤ICT <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input checked="" type="checkbox"/> タブレット <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクターなど <input checked="" type="checkbox"/> class roomで配信した描画ソフトのデータ
出口・評価	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用)： 適切に場合分けをして最大値・最小値を求めることができる。 <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： グラフを利用して最大値・最小値がどのように変化するか判断することができる。 <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得)： 増減表を用いて極値を求め、基となるグラフをかくことができる。 ②方法 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> 定期考査、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input type="checkbox"/> シート提出、 <input type="checkbox"/> 実技テスト (○○○・・・<具体的な特徴があれば記述する>)
	5 科目や学校全体の教育目標との一致	見つめる力 きわめる力 つなげる力 ★★☆☆ ★★☆☆ ★★☆☆
生徒の自己評価	6 リフレクションの方法	日々の演習(宿題)を通して理解できているかどうかを確認する。
	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用)： 正しく場合分けをして最大値・最小値を求めることができたか。 <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： aの値が変化することで極値、最大値、最小値の位置が変化することに気づけたか。 <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得)： 増減表を用いてグラフの概形を把握することができたか。
継続	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	・増減表を用いて最大値や最小値となる位置を考えようとしたか。 ・最大値や最小値を取るxの値が変化する場所に気づけたか。
	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	TOOL4学習プロセスを助ける作戦

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 数学 氏名 _____

授業実施日：令和3年11月16日

本時の見せどころは、数学が日常生活にどのように使われているのかを知り、同様のケースを考え提案するところ。

視点		記述欄
科目名		数学Ⅱ
出入口	1 生徒	①所属 美術科2年A組 ②人数 40人(男子7人、女子33人) ③特徴・ニーズ 数学が得意な生徒と苦手な生徒の成績差が大きい。教え合う雰囲気があるので授業中の協議を作りながら進めるのは効果がある。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 中学校・・・指数法則など 数学Ⅱ・・・指数関数と対数関数 次にどこで使いますか 数学B数列、入試、将来それぞれが働いているとき(一般常識)
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法(C/Eの問い、指導方法、展開)	①Michael 題材 バクテリアの分裂について(時間と個数の関係) ②C/Eの問い 「バクテリアの個数がある時点の10000倍を超えるのはその時点の何分後か。」 ③単元計画 使用教材：最新 数学Ⅱ 単元計画：指数関数・対数関数の応用(12/12時間) 本時 ④方法 ■講義 ■演習 ■グループワーク □実演 □実習 ⑤ICT □実物投影機 ■タブレット
出口・評価	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ □Extensions(応用、活用)： 感染症の新規患者数の増え方と「指数関数的に増殖する」という言葉の意味が理解できる □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 感染症の新規患者数の増え方について考え、立式できる。 □Ideas(知識、技能の習得)： 感染症の新規患者数の増え方を、日毎に捉えることができる。また、立式したものを計算ができる。 ②方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト
	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★ つなげる力 ★★
生徒の自己評価	6 リフレクションの方法	お互いに自分の考えを伝える(説明する)。(2人か3人)
	7 ICEモデルに当てはめると	□Extensions(応用、活用)： バクテリアの増殖のような例を身近なところに発見(応用)できるか？ □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： バクテリアの増殖について理解し、生物の分野の学習に知る。 □Ideas(知識、技能の習得)： バクテリアの増殖について理解し、立式したものを正しく説明ができるか？
継続	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	バクテリアの増殖を例として挙げたため、新たな活用法として同様のケースが多くなった。ドラえもんのパイパインのような漫画の例も可であるが、今回は出なかった。数列で振り返りもかねて扱うことにする。
	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	ARCSモデル(A-2 好奇心を大切に)

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

数学

教科：[数学] / 科目名：[数学Ⅱ] / [2] 学年対象・[3] 単位
出題する考査 [3] 学期 [学年末] 考査
該当する単元等 数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数
出題意図 (レベル) (1) Cレベル (2) ① Iレベル ② Eレベル
<p>④ $A = 42^{30}$ について、次の問いに答えなさい。ただし、$\log_{10} 2 = 0.3010$, $\log_{10} 3 = 0.4771$, $\log_{10} 7 = 0.8450$ とする。</p> <p>(1) A は何桁の数か。(5点) (2) 以下の会話の読んで①, ②の問いに答えなさい。</p> <p>I田：「Aの桁数はわかったけど、もう少しAのおおよその値を絞り込むことはできないのかな？」</p> <p>D前：「Aの最高位の数字がわかれば絞り込むことができるよ。」</p> <p>I田：「Aの最高位の数字を求めることができるの？」</p> <p>D前：「例えば、$\log_{10} 3 = 0.4771$ から、$3 = 10^{\boxed{\text{ア}}}$ と表すことができるよね。同様に、$4 = 10^{\boxed{\text{イ}}}$, $5 = 10^{\boxed{\text{ウ}}}$, $6 = 10^{\boxed{\text{エ}}}$ と表せるでしょう。このことから最高位の数字を判断することができるよ。」</p> <p>I田：「わかった！！ありがとうD前さん。」</p> <p>① $\boxed{\text{ア}} \sim \boxed{\text{エ}}$ に入る適当な値を答えなさい。(各1点) (答えだけでよい。)</p> <p>② 最高位の数字を求めなさい。(5点) (式や考えの根拠を必ず書くこと。)</p>
採点基準 (配点) (1) 5点 (2) ① 4点 ② 5点
備考 常用対数は概数を求めるときに重宝する。それが実感できるような問題にした。また、対数の基本的な計算ができるかを確認できるようにIレベルの問題も入れている。

教科：[数学] / 科目名：[数学Ⅱ] / [2] 学年対象・[3] 単位	
出題する考査	[2] 学期 [期末] 考査
該当する単元等	数学Ⅱ 第2章 式と曲線
出題意図 (レベル)	(ア) Iレベル (イ) Iレベル (ウ) Eレベル (エ) Cレベル
<p>次の先生と生徒の会話文が完成するように <input type="text"/> のア～エに適する数式式を入れなさい。 解答は、解答欄に答のみ記入すること。</p> <p>生徒：今日のニュースで、「感染症の新規患者が指数関数的に増加する。」かもしれない と言っていたのですが、「指数関数的に増加する」とはどういうことですか？</p> <p>先生：例えば、1人の患者から3人感染するとした場合に、 新規患者は、1日目-- 1人，2日目-- 3人， 3日目-- <input type="text"/> 人，4日目-- <input type="text"/> 人，--と増えていきます。</p> <p>x日目に y人の新規患者が出るとすると、$y =$ <input type="text"/> となるから、新規患者が 指数関数のように増えるのがわかりますよね。</p> <p>生徒：新規患者が増えていくのはわかりますが、そこまで多くなりませんように。 先生：いやいや本当にそうですか？ それでは考えて見ましょう。 この感染症の場合、新規感染者が10万人をはじめて超えるのは何日目になりますか？ $\log_{10}3 = 0.4771$ とする。</p> <p>生徒：びっくりしました。<input type="text"/> 日目には、10万人を超えるんですね。 とても恐ろしい結果です。</p> <p>先生：実際は、そうなる前に対策を取るので、同じ結果にはならないかもしれません。 予防は、みんなのためにも必要ですね。</p>	
採点基準 (配点)	(ア) 2点 (イ) 2点 (ウ) 3点 (エ) 3点
備考	(ウ) は、数列の一般項の考えかたにつながるものです。 数列は未履修であるため、指数関数で十分考えられるものとした。

解答欄

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 理科 氏名 _____

授業実施日：令和3年11月13日

本時の見せどころは、フローカードを使って知識を整理し、次につなげるところです。

視点		記述欄
科目名		理数物理
出入口	1 生徒	①所属 理数科1年S組 ②人数 41人(男子26人、女子15人) ③特徴・ニーズ 非常に熱心に授業に臨むことができ、生徒同士で自主的に学び合うなどの行為もよくできるクラスである。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 温度・・・ エネルギー・・・ 次にどこで使いますか 気体の状態変化・・・ 気体分子運動論・・・
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 熱と仕事 ②C/Eの問い 「あたたまりやすい(にくい)とは物理的にどういうことを指しているか。」 ③単元計画 (1)熱と熱量 (2)熱と物質の状態 (3)熱と仕事(本時 4/4) ④方法 ■講義 □演習 ■グループワーク ■実演 □実習 ⑤ICT □実物投影機 ■タブレット
出口・評価	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ □Extensions(応用、活用)：熱運動と仕事を関連付けることができ、身近なぶつり現象について結び付けようとしている。分野全体を俯瞰し、関連性を捉えることができる。 □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)：現象に対して生じた疑問について得た納得解を自分の言葉で他者に説明することができる。 □Ideas(知識、技能の習得)：熱と仕事について、基本的な概念や共通点について、教科書から読み取り、説明することができる。 ②方法 □小テスト、■定期考査、■レポート、□シート提出、□実技テスト
	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★☆☆ きわめる力 ★★☆☆ つなげる力 ★★☆☆
生徒の自己評価	6 リフレクションの方法	授業終了時に7~9枚のフローカードをデジタル配信し、それらを授業の展開順に並べ、知識の整理と次回以降の授業への接続を意識させる。
	7 ICEモデルに当てはめると	□Extensions(応用、活用)：熱と仕事について、身近な社会問題に照らし合わせて考えることができるか？ □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)：熱と仕事について、他教科、多科目との横断ができているか？ □Ideas(知識、技能の習得)：熱と仕事について、定量的に表す法則や式を確認できたか？
継続	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	熱とエネルギーについては全分野にまたがって学習する領域の1つである。科目内の横断をしっかりと意識させ、微視的な量を用いて巨視的な量を取り扱うことの興味深さについて今後も学ばせたい。
	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	TOOL3 授業設計の原則(メリルのID第一原理)

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

教科：[理科] / 科目名：[物理] / [2] 学年対象・[3] 単位	
出題する考査	[2] 学期 [期末] 考査
該当する単元等	数学Ⅱ 第2章 式と曲線
出題意図 (レベル)	(1) I レベル (2) I レベル (3) I レベル (4) C レベル (5) C レベル (6) E レベル (7) E レベル
<p>6. 屈折率 1.5 のガラスに、屈折率 1.6 の薄膜をはる。この膜に空気中での波長 $4.8 \times 10^{-7} \text{ [m]}$ の単色光をあてるとき、以下の各問いに答えなさい。</p> <p>(1) 図中の P 場合、I 面での入射波と反射波の位相差は何 [rad] が答えなさい。</p> <p>(2) (1) と同様に図中 P の場合、II 面での入射波と反射波の位相差は何 [rad] が答えなさい。</p> <p>(3) この光の薄膜中での波長は何 [m] が答えなさい。</p> <p>(4) 図中 P の場合、反射光が弱め合うための薄膜の最小の厚さは何 [m] が答えなさい。</p> <p>(5) 図中 Q の場合、透過光が強め合うための薄膜の最小の厚さは何 [m] が答えなさい。</p>	
<p>図 6</p>	
<p>次に、針金を丸めてつくった円形の枠をセッケン水につけ、枠にセッケン膜（以下、膜という）を張って、膜面を鉛直にした。しばらくすると、膜の断面は、上部が薄く、下部が厚くなった。いま、空気中での波長が λ の単色光を膜の面に対して垂直に入射させて観察すると、図 7 のような明暗の縞模様が見られた。</p> <p>(6) 図 7 の上部“縞模様は見られない”のはなぜか。薄膜の厚さに着目して、文章で答えなさい。</p> <p>(7) 光源を白色光にかえて同様に観察をすると、膜には図 8 のように色づいた縞模様がみられた。色づいた部分の最上部付近において、赤・青・黄・緑はどのように並んでみえるか。その順序を上から順に答えなさい。</p>	
<p>図 7</p> <p>図 8</p>	
採点基準 (配点)	(1) 3 点 (2) 3 点 (3) 3 点 (4) 3 点 (5) 3 点 (6) 4 点 (7) 4 点
備考	(6) (7) は、干渉条件の式をよく吟味することで解答につなげることができる問題である。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 理科(化学) 氏名 _____

授業実施日: 令和 3年 9月15日

本時の見せどころは・・・
未習事項を既習事項に照らし合わせ、生徒自身が解決していく。

視点		記述欄
科目名		理数化学
出入口	1 生徒	①所属 理数科3年S組 ②人数 42人(男子32人、女子10人) ③特徴・ニーズ 意見が活発に出すことができ、主体性が身につけている。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 金属イオンの分離(無機化学) 次にどこで使いますか 有機化合物の分離(抽出実験)
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法(C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 有機化合物の分離 ②C/Eの問い 「何を知るとフェノールを抽出できるか？」 ③単元計画 (1)混合物の分離(本時) (2)芳香族炭化水素 (3)酸素を含む芳香族炭化水素 (4)窒素を含む芳香族炭化水素 (5)混合物の分離 確認 ④方法 ■講義 ■演習 ■グループワーク □実演 □実習 ⑤ICT □実物投影機 ■タブレット ■プロジェクター
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると? □Extensions(応用、活用): 目的達成のために必要となる知識やスキルを自分自身で発見し、その知識やスキルの修得のため行動を取ることができる。 □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク): 既習事項である金属イオンの分離の考え方に則り、有機化合物の分離の方法を考えることができる。 □Ideas(知識、技能の習得): Extensionsのために必要となる知識を教科書・資料集からピックアップできる。 ②方法 ■小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★☆☆ ★★☆☆ ★★★★★
	6 リフレクションの方法	分離のために必要となる知識をグループ内で共有する。 分離系統図を作成し、意見交換する。
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	□Extensions(応用、活用): 目的達成のために必要となる知識やスキルを発見できたか? □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク): 既習事項である金属イオンの分離の考え方に則り、有機化合物の分離の方法を考えることができたか? □Ideas(知識、技能の習得): Extensionsのために必要となる知識を教科書・資料集からピックアップできたか?
	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	本時で生徒自身が得た知識やスキルについて、誤概念・素朴概念をピックアップし、正しい概念に変えていく。
継続	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると?	TOOL4 ガニエの9教授事象

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート


教科 理科 氏名 _____

授業実施日：令和 3 年 10 月 8 日

本時の見せどころは
電気の正体に迫る！

視点		記述欄
科目名		理数化学
出入口	1 生徒	①所属 理数科2年S組 ②人数 人(男子〇人、女子〇人) ③特徴・ニーズ ○○○・・・・
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか イオン化傾向 次にどこで使いますか 電気分解
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 電池 ②C/Eの問い 「電気の正体って何だろう？」 ③単元計画 (1) 金属のイオン化傾向 (2) 金属の反応性 (3) 電池(本時) (4) 実用電池 ④方法 ■講義 □演習 ■グループワーク □実演 □実習 ⑤ICT □実物投影機 ■タブレット □_____
出口・評価	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ □Extensions(応用、活用)： 自然に負荷がかりにくい電気エネルギーを得る方法を考えよう。 □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 身の周りの電池の種類や構造を知る。 □Ideas(知識、技能の習得)： 電池の原理を理解する。 ②方法 ■小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト
	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★☆☆ きわめる力 ★★☆☆ つなげる力 ★★☆☆
生徒の自己評価	6 リフレクションの方法	自分が利用している電池の名称を知り、構造や特徴を教科書等を利用して確認する。
	7 ICEモデルに当てはめると	□Extensions(応用、活用)： 自然に負荷がかりにくい電気エネルギーを得る方法を考えることができたか？ □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 身の周りの電池の種類や構造を知ることができたか？ □Ideas(知識、技能の習得)： 電池の原理を理解することができたか？
継続	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	電池の構造や原理について生徒たちに理解させることができたのか。
	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	TOOL4学習プロセスを助ける作戦

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

教科：[理科] / 科目名：[化学] / [3] 学年対象・[4] 単位	
出題する考査	[2] 学期 [中間] 考査
該当する単元等	化学 4章 3節 エステル 家庭基礎
出題意図 (レベル)	Eフェーズ
<p>【3】右図は、食用油の一例である。容器が無色なもの、色のついたもの、ポリエチレン製、ガラス製、空気が入りにくいようになっているものがある。なぜこのように容器の材質や形状に違いがあるのですか。根拠を示して説明せよ。</p>	
	
採点基準 (配点)	
5点	
備考	我々の生活に欠くことのできない油脂についての問題である。家庭基礎では、栄養面から化学では分子レベルでの油脂の成り立ちを学習した。また、油脂の性質を利用した保存容器の形状について気づかせる問題とし、教科横断型の出題とした。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科理科 (生物) 氏名 _____

授業実施日: 令和3年10月28日

本時の見せどころは・・・
尿形成の内容と、体内の塩分濃度調節を結びつける

視点		記述欄
科目名		生物応用
出入口	1 生徒	①所属 普通科3年1組 ②人数 41人(男子〇人、女子〇人) ③特徴・ニーズ 大学入試に向けて頑張っている。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 腎臓(尿形成) 次にどこで使いますか 血糖量の維持
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法(C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 3 生物の体内環境の維持 2 体内環境の維持のしくみ ②C/Eの問い 「体内の塩分濃度はどのように調節されているか」 ③単元計画 (1) 自律神経のはたらき (2) ホルモンのはたらき (3) フィードバック(本時) (4) 血糖量・体温の維持 ④方法 ■講義 ■演習 □グループワーク □実演 □実習 ⑤ICT □実物投影機 ■タブレット □_____
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると? □Extensions(応用、活用): 体内の塩分濃度の調節のしくみについて説明できる。 □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク): 尿形成における再吸収について説明できる。 □Ideas(知識、技能の習得): 塩分濃度の調節に関わるホルモンを2つ答えられる。 ②方法 ■小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★☆☆ きわめる力 ★☆☆ つなげる力 ★★★
	6 リフレクションの方法	小テストを実施する。
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	□Extensions(応用、活用): 体内の塩分濃度の調節について答えられたか。 □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク): 再吸収と体内の塩分濃度の関係について答えられたか。 □Ideas(知識、技能の習得): フィードバックについて答えられたか。
	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	定期テスト
継続	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると?	tool3 メリルのID第一原理(2)活性化(3)例示(4)応用

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 生物 氏名 _____

授業実施日：令和3年 11月 2日

本時の見せどころは・・・
腎臓の構造と機能を理解し、血圧や尿量の変化などの生理現象を科学的に考察する。

視点		記述欄
科目名		生物基礎
出入口	1 生徒	①所属 普通科1年7組 ②人数 41人(男子23人、女子18人) ③特徴・ニーズ 落ち着いた雰囲気のクラスで、発問に対する反応もよい。……
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 細胞膜の性質(膜の透過性)、溶液の濃度の概念、 動物の体のつくりとはたらき(中学校2年生) 次にどこで使いますか 単細胞生物および魚類の浸透圧調節 自律神経とホルモンによる体内環境の調節
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法(C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 腎臓の構造と機能 ②C/Eの問い 「体内環境を維持する上での腎臓の機能は何か？」 ③単元計画 (1)腎臓と肝臓の役割 (2)腎臓の構造とはたらき(本時) (3)肝臓の構造とはたらき ④方法 ■講義 ■演習 □グループワーク □実演 □実習 ⑤ICT □実物投影機 ■タブレット ■プロジェクター 腎臓の構造の提示
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ ■Extensions(応用、活用)： 腎臓の機能をヒトの生理現象と関連付けて考察できる。 ■Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 腎臓の機能(ろ過・再吸収)のしくみが理解できる。 ■Ideas(知識、技能の習得)： 基本的な腎臓の構造と機能(ろ過・再吸収)のしくみを説明できる。 ②方法 ■小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト (濃縮率、原尿量、再吸収量に関する思考力を問う)
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みづめる力 ★★★ きわめる力 ★★☆☆ つなげる力 ★★☆☆
	6 リフレクションの方法	腎臓の機能を理解して、血圧の変化および尿量の変化などの生理現象について生徒同士で考察する。
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	■Extensions(応用、活用)： 血圧や尿量の変化など浸透現象が体内環境に与える影響を考察できる。 ■Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： ろ過と再吸収による老廃物の排出と浸透圧の調節について理解できる。 ■Ideas(知識、技能の習得)： 腎臓の各部の名称と簡単な機能(ろ過・再吸収)を説明できる。
	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	本時で学んだ腎臓による浸透現象の原理に関して、生徒の理解度を図るための問題演習を行う。
継続	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	メリルのID第一原理

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

教科：[理科] / 科目名：[生物応用] / [3] 学年対象・[2] 単位	
出題する考査	[2] 学期 [中間] 考査
該当する単元等	第7章生物群集と生態系 第6節生態系と生物多様性 B 生態系の保全
出題意図 (レベル)	<p>問5 (Cフェーズ) : ①ゲノムとは、ある種を規定するのに必要な遺伝情報全体であること、②DNAの片方のヌクレオチド鎖のみが転写されること、③転写されたmRNA 3塩基から1アミノ酸が翻訳されること、④1つの遺伝子からは1種類のタンパク質がつくられること、の4つの知識を連結させて解く問題。</p> <p>問6 (Eフェーズ) : 一見、自由作文のように見えて、問1の(①)にあてはまる語句を用いることと、エの前文にある「私たち」にできることは何かという条件を満たす必要がある。読解力と思考力が問われる問題。</p>
<p>[2] 高校生のアイカとイチローは生態系の保全について調べ、その内容について話し合った。</p> <p>アイカ： 以前スプレーの噴射剤やエアコン・冷蔵庫の冷媒などに使われていた(①)は、上空で(②)層を破壊して、<u>ア(②)層が薄い部分</u>をつくっていることが判ったわ。でも、(②)層にはどんな働きがあるのかしら？</p> <p>イチロー： (②)層は、地表面に降り注ぐ紫外線を(③)させる働きをもっているよ。</p> <p>アイカ： だから、(②)層が破壊されると、<u>イ地表面に降り注ぐ紫外線が(④)して、生物に影響を及ぼす</u>ことが懸念されているのね。</p> <p>イチロー： そうだね。紫外線は<u>ウ遺伝子の本体であるDNA</u>を傷つける作用があるので、遺伝子突然変異の原因にもなるらしいよ。</p> <p>アイカ： (②)層の破壊を防ぐために、私たちは何をしたらいいのかしら？</p> <p>イチロー： エ</p> <p style="text-align: center;">～ (中略) ～</p> <p>問5 (Cフェーズ) あるウイルスのゲノムの大きさは約 16 万塩基対である。このウイルスのタンパク質を構成するアミノ酸の数を平均 300 個とすると、このウイルスのゲノムには最大でおよそ何種類のタンパク質の情報が存在していると考えられるか。最も適当なものを、次の①～⑧のうちから1つ選べ。</p> <p>① 20 ② 50 ③ 90 ④ 180 ⑤ 360 ⑥ 530 ⑦ 900 ⑧ 1800</p> <p>問6 (Eフェーズ) あなたなら、空欄エにどんな文章を入れるか。問1の(①)にあてはまる語句を用いて記せ。</p> <p style="text-align: center;">～ (後略) ～</p>	

理科

採点基準 (配点)	<p>問5 ④ (3点)</p> <p>(解法) 塩基対 160000 の DNA から転写された mRNA の塩基数は 160000。 よって、$160000 \div 3 \div 300 = 177.777\cdots$ 従って、④180 が最も適当な解になる。</p> <p>問6 (4点)</p> <p>(解答例) フロンではない噴射剤や冷媒を用いたスプレーやエアコン・冷蔵庫であるか確認して、使っていかなければならないね。</p> <p>(注意点) ①「フロン」という語句が使われていること。 ②「私たち」高校生にできる(可能な)ことであること。</p>
備考	<p>問6の答案では、上記の注意点を満たしていない内容が多かった。 (例) 「フロンを分解する」</p> <p>環境の保全に関しては、問題点を明確にして、より具体的な対応策や実現可能な策を提示できるように、日頃から関心をもって様々なニュースに接してほしい。そのためにも、環境の保全を意識させる問いかけを今後も続けて行きたいと思う。</p>

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 理科・地学 氏名

授業実施日：令和3年7月12日

本時の見せどころは、大森公式を使用して、震源距離を求めるところです。

視点		
科目名		地学基礎
出入口	1 生徒	①所属 普通科2年1組 ②人数 41人(男子17人、女子24人) ③特徴・ニーズ 地球科学的分野に興味関心がある。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか プレートの運動により地震が起き、地震波が発生する。 次にどこで使いますか 大森公式と作図を用いて、震央と震源の深さの決定ができることを知る。
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法(C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 「震源距離」 ②C/Eの問い 「大森公式を用いて、震源距離を求めることができるか」 ③単元計画 (1)地震の分布 (2)地震の発生と断層 (3)マグニチュードと震度 (4)地震波からわかること(本時) ④方法 ■講義 ■演習 ■グループワーク ⑤ICT ■実物投影機 ■モニタ ■パソコン
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用)： 大森公式を用いて、震源距離、地震発生時間を求めることができる。 <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 大森公式をp波とs波の速度で表すことができる。 <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得)： 震源距離は、初期微動継続時間に比例することがわかる。 ②方法 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> 定期考査、 <input type="checkbox"/> レポート、 <input type="checkbox"/> シート提出、 <input type="checkbox"/> 実技テスト
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ☆☆☆ ★★☆☆ ★★☆☆
	6 リフレクションの方法	問題演習により、理解度を確認する。
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用)： 大森公式を用いて、震源距離や地震発生時間を求めることができたか？ <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 大森公式をP波とS波の速度で表すことができたか？ <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得)： 震源距離は、初期微動継続時間に比例することがわかったか？
	8 この授業での振返教員のリフレクション	ICTを活用して、大森公式から震源距離を求められることを説明ができたか。
継続	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	TOOL4 ガニエの9教授事象

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 保健体育 氏名 _____

授業実施日：令和3年10月21日

本時の見せどころは・・・20年後の自分の姿をリアルに予想し、生き生きと発表する生徒の姿を御覧ください。

視点		記述欄
科目名		保健
出入口	1 生徒	①所属 普通科1年7組 ②人数 41人(男子23人、女子18人) ③特徴・ニーズ グループ活動が得意な生徒もいるものの、教師の発問やグループ活動の行い方の工夫が必要である。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 中学校までに学んだ、「発生源をなくすこと」「感染経路を遮断すること」「主体の抵抗力を高めることによって予防できること」の感染症予防の三原則を理解している。 次にどこで使いますか 次の時間に学習する「性感染症・エイズとその予防」や2年次に学習する「保健制度とその活用」につながっていく。
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 「感染症の予防」 ②C/Eの問い 「20年後のあなたが、家族や周囲の人たちの健康を守るために感染症予防として意識することはなんですか？」 ③単元計画 (1) 現代の感染症 (2) 感染症の予防(2/2本時) (3) 性感染症・エイズとその予防 ④方法 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実演 <input type="checkbox"/> 実習 ⑤ICT <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> タブレット <input checked="" type="checkbox"/> 動画
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用)： 20年後の自分を想定し、家族や周囲の人たちの健康を守るために感染症予防として意識することができる。 <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 2種のニュースの視聴を比較し、状況の変化で対策が変化することを知識とつなげることができる。 <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得)： 感染症予防の三要素を確認できる。 ②方法 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> 定期考査、 <input type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> シート提出、 <input type="checkbox"/> 実技テスト
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★☆☆ ★★★★★ ★★★★★
	6 リフレクションの方法	「振り返りのたまご」を使って
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用)： 未来を想像し、学びを活かそうとすることができているか？また、自分の考えを他者へ表現することができているか？ <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 実際の報道をもとに感染予防の社会的対策について学ぶことができているか？ <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得)： 感染症予防の三原則を理解しているか？
	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	ワークシート、「振り返りのたまご」を回収する 先生方から書いていただいた授業参観シート
継続	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID第一原理 「応用」与えられた条件で何が起きるかを予想させる。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

教科：[保健体育] / 科目名：[保健] / [1] 学年対象・[1] 単位
出題する考査 [3] 学期 [学年末] 考査
該当する単元等 現代社会と健康「交通事故の現状と要因」
出題意図 (レベル)
(1) Iフェーズ (2) Cフェーズ (3) Eフェーズ

【問題 5】

[問1] 交通事故が起こる要因を3つ答えなさい。

- (1) 要因・・・運転者（当事者）の行動や規範を守る意識
- (2) 要因・・・天候や道路状況
- (3) 要因・・・車両の特性

[問2] 次の①～⑤は交通事故の発生時の状況である。事故の発生の要因は何か。運転者（当事者）の行動や規範を守る意識にはA、天候や道路状況にはB、車両の特性にはCを、それぞれ記入しなさい。

- ① 信号無視をして交差点に進入した。
- ② 雨が降っており、路面がぬれていた。
- ③ 車のブレーキの効きが甘いなどの整備不良や、後方視界の悪い構造的問題があった。
- ④ 法定速度を大幅に超えるスピードを出していた。
- ⑤ 夜であった。街路灯もなく見通しが悪い道路で会った。

[問3] 最近では、交通事故による死者数、負傷者数ともに減少傾向にあるが、その理由として考えられることを70字以上で答えなさい。

採点基準
(配点)

【問題 5】

問1	① 主体	② 環境	③ 車両		
問2	① A	② B	③ C	④ A	⑤ B
問3	法的整備、施設・設備の充実に、 救急医療体制の整備、車の安全性（安全装備）の向上などを 字数を満たし記述し、いれば5点。				
5点					

備考

教科：[保健体育] / 科目名：[保健] / [2] 学年対象・[1] 単位	
出題する考査	[3] 学期 [学年末] 考査
該当する単元等	高齢者のための社会的取り組み
出題意図 (レベル)	(1) iフェーズ (2) Cフェーズ (3) Eフェーズ
<p>問題1 次の問いに答えなさい。</p> <p>問1 次の文章が示す言葉を答えなさい。</p> <p>① 寝たきりや認知症にならないで生活できる期間。</p> <p>② 特に高齢者や障がいがある人の日常生活の妨げとなる障壁をなくしていこうとする考え方。</p> <p>③ 障がいの有無や年齢・性別・国籍にかかわらず、初めから誰もが使いやすいように施設や製品、環境などをデザインするという考え方。</p> <p>問2 第二高校敷地内で、問1の2の考え方に配慮されているところを2つ答えなさい。（「どこの、何か」という形で答えること）</p> <p>問3 第二高校敷地内で、問1の2の考え方に<u>配慮されていないところ</u>を2つ答え、それぞれ改善案を答えなさい。（配慮されていないところは「どこの、何か」という形で答えること）</p>	
採点基準 (配点)	<p>問1 ①②③・・・名称正解で2点</p> <p>問2・・・配慮されている場所・・・2点</p> <p>問3・・・配慮されていない場所・・・1点 改善案・・・1点</p>
備考	

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 芸術 氏名 _____

授業実施日: 令和 3年 7月 2日

本時の見せどころは試験本番さながらのシミュレーションと演習者の自己分析、次の課題への取組の確認、授業担当者の記録です。

視点		
科目名		音楽Ⅲ
出入口	1 生徒	①所属 普通科3年3組 ②人数 1人(男子1人、女子0人) ③特徴・ニーズ 芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻志望
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか ピアノの奏法 次にどこで使いますか 入学試験 各種コンクール
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 東京藝術大学1次試験シミュレーション ②C/Eの問い「楽曲構成と体力配分」 ③単元計画 (1)楽曲1の練習 (2)楽曲2の練習 (3)楽曲1+楽曲2の連続演奏(本時) (4)振り返り 再度の演奏 ④方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実演 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 ⑤ICT <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> タブレット <input checked="" type="checkbox"/> 電子楽譜
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると? <input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用): 現在までのテクニックで表現できることを確認する <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク): 楽曲の歴史、技法の発達、楽器の進化 作曲家や当時の出版社の知識 <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得): 練習方法、新たな課題の発見 ②方法 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input type="checkbox"/> 定期考査、 <input type="checkbox"/> レポート、 <input type="checkbox"/> シート提出、 <input checked="" type="checkbox"/> 実技テスト (○○○……<具体的な特徴があれば記述する>)
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★☆ ★★☆☆ ★★☆☆
	6 リフレクションの方法	「自己分析」「演奏後の評価」の作成、授業担当者からの講評
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用): 現在までのテクニックで表現できることを確認できたか? <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク): 楽曲の歴史、技法の発達、楽器の進化 作曲家や当時の出版社の知識を得ることができたか? <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得): 練習方法、新たな課題の発見することができたか?
	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	連続した試験そのものの曲順で、体力を保持した演奏をすることができたか。 集中力をコントロールすることができたか。
継続	9 工夫の根拠 IDモデルに当てはめると?	ARCSモデル

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

芸術

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 書道 氏名 _____

授業実施日：令和3年12月10日

本時の見せどころは・・・
さまざまな表現方法を駆使しながら楽しんで作品作りをしている生徒の様子をご覧ください。

視点		記述欄		
科目・研修名		書道Ⅱ		
出入口	1 生徒・受講者	① 所属 普通科2年2階組書道選択者 ② 人数 10人(男子3人、女子7人) ③ 特徴・ニーズ 男女とも書道に対する意欲ある。		
	2 授業・研修の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 書道Ⅰでの創作活動(2021カレンダー作り)と、その振り返り体験。 次にどこで使いますか ① 来年度のカレンダー作成 ② 年度末の行う創作活動		
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材 漢字仮名交じりの書の学習「表現方法を広げる」 ② C/Eの問い「書道Ⅰの創作活動を活かし、表現の幅を広げることが、心(感性)を豊かにするのか？」 ③ 方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 実演 <input checked="" type="checkbox"/> 作品 <input checked="" type="checkbox"/> 相互評価 ④ ICT <input checked="" type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> タブレット ⑤ 単元計画 (1) 表現とは？ 表現にあった作品作り① (2) 表現にあった作品作り②、相互鑑賞(本時) (3) 全体鑑賞		
出口・評価	4 教員の評価の方法	①方法 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input type="checkbox"/> 定期考査、 <input type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> シート提出、 <input checked="" type="checkbox"/> 作品 ②ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> ideas (知識、技能の習得)： さまざまな表現方法があることを知ることができる。 <input type="checkbox"/> connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 表現した作品を言語化して説明することができる。 <input type="checkbox"/> extensions (応用、活用)： 創作作品に表現することができる。		
	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ☆☆☆	きわめる力 ★★☆	つなげる力 ★★★
生徒の自己評価	6 生徒のリフレクション	制作後の作品 ワークシートによる文章での振り返り		
	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> ideas (知識、技能の習得)： さまざまな表現方法があることを知ることができたか？ <input type="checkbox"/> connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 表現した作品を言語化して説明することができたか？ <input type="checkbox"/> extensions (応用、活用)： 創作作品に表現することができたか？		
継続	8 教員のリフレクション	作品を相互評価する機会を作る。口頭発表の機会を作る。		
	9 IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID第一原理(3)例示 (4)応用 (5)統合		

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 美術 氏名

授業実施日：令和 3年 6月17日

視点		記述欄
科目名		絵画
出入口	1 生徒	①所属 美術科 2年A組 ②人数 40人(男子7人、女子33人) ③特徴・ニーズ 美術への関心が高く、主題を持った制作には意欲的である。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか ・構図や配色などの造形要素 ・水彩画の技法、 ・作品の主題を生成し追究していく姿勢 次にどこで使いますか 風景画の制作、個別のテーマによる制作
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材：日本画で描く「夏」 ②C/Eの問い 「あなたが考える日本画とはどのようなものか？」 ③単元計画 (1) 日本画の特徴・画材・手順等について学ぶ(講義、動画視聴) (2) 主題を生成し、制作する (3) 完成した作品を振り返り、主題を深める「俳句」を作成する。 また、日本画について考えをまとめる(本時) (4) 作品、句を鑑賞し、評価する。展示の準備。 ④方法 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実演 <input type="checkbox"/> 実習 ⑤ICT <input checked="" type="checkbox"/> 実物投影機 <input checked="" type="checkbox"/> モニター <input checked="" type="checkbox"/> クロームブック：Classroomによるドキュメント配付、
出口・評価	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用) (制作や学習を通して)今回学んだことを、今後の自分の制作活動にいかそうとしている。 <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク) 日本画について探究し、自分が生成した主題を表現している。学修したことや自身の経験を踏まえ、日本画を説明することができる。 <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得) 日本画の素材や技法について理解している。制作を通して、理解を深めている。 ②方法 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input type="checkbox"/> 定期考査、 <input type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> シート提出、 <input type="checkbox"/> 実技テスト <input checked="" type="checkbox"/> 作品制作
	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ☆☆☆ ★★☆☆ ★★☆☆
生徒の自己評価	6 リフレクションの方法	ワークシートの提出、グループ内での作品・俳句プレゼン
	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用) (制作や学習を通して)今回学んだことを、今後の自分の制作活動にいかそうと考えることができたか？ <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク) 「作品の主題を深める俳句」を作成することができたか？ 日本画について自分の考えをまとめることができたか？ <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得) 完成した作品は自分の意図に応じた工夫ができたか？
継続	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	ワークシートへの記載内容、グループ内での協働による様子
	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	

美術

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 美術探究 氏名

授業実施日：令和 3年 7月 19日

本時の見せどころは「日本美術と西洋美術の比較から学ぶ」です！

視点		記述欄
科目名		美術探究
出入口	1 生徒	①所属 美術科1年A組 ②人数 39人(男子3人、女子36人) ③特徴・ニーズ
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 画像をよく観察し、言葉にする態度 中学校等で学んだ透視図法の知識 次にどこで使いますか ルネサンスに関する学習
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法(C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 「源氏物語絵巻を透視図法で描くと？」 ②C/Eの問い 「日本美術って西洋絵画より下手ですか？」 ③単元計画 (1) 飛鳥時代 (2) 奈良時代 (3) 平安時代(本時) (4) 鎌倉時代・・・ ④方法 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 実演 <input type="checkbox"/> 実習 ⑤ICT <input checked="" type="checkbox"/> 実物投影機 <input checked="" type="checkbox"/> タブレット
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用)： 「吹抜屋台」の手法でなければできない表現であることを考える <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 西洋美術(レオナルドの最後の晩餐など) 源氏物語の知識 <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得)： 透視図法の描き方 ②方法 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input checked="" type="checkbox"/> 定期考査、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input type="checkbox"/> シート提出、 <input type="checkbox"/> 実技テスト 「感じたこと、気づいたこと、わかったこと」の項目
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★ ★☆☆ ★★★
	6 リフレクションの方法	実物投影機をつかったプレゼンテーションを聞いて自分のレポートを振り返る。 定期考査で知識の定着を確認する。
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用)： 「吹抜期待」の効果を理解できたか？ <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 過去の価値観と比較できたか？ <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得)： 用語を正しく使用できたか？
	8 この授業での振り返教員のリフレクション	生徒の作成した図を確認し、透視図法に対するももとの生徒の理解を図る。
継続	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	TOOL1 ARCSモデル

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

教科：[美術探究] 美術科 1 学年対象・[2] 単位	
出題する考查	[2] 学期 [期末] 考查
該当する単元等	平安時代の美術
出題意図 (レベル)	【E】 (1) Cフェーズ (2) Iフェーズ (3) Eフェーズ
6 (1) 図版 (ツ) は源氏物語絵巻の一場面です。この作品を建物は西洋的な透視図法で、人物は写實的、自然主義的表現で描き直してください。(細部にこだわらなくて良い) (2) 想像で話の筋を考え、直接 (1) の自分の絵 (描き直した方) に吹き出しをつけ台詞を書いてください。 (3) 絵巻物の特徴を「吹抜屋台」「引目鉤鼻」の二語を用いて説明しなさい。	
採点基準 (配点)	(1) 透視図法を理解し、人物の関係がわかるように描写しているか (2) 画像分析の情報から登場人物の感情を引き出しているか (3) 西洋美術的な価値観でない、表現の巧みさを理解したか
備考	考查前の指導で、 ①授業で透視図法のおさらい ②源氏物語に関する予備知識。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 英語 氏名

授業実施日：令和3年 月 日

本時の見せどころは、生徒の自主的な活動で

視点		記述欄
科目名		コミュニケーション英語Ⅰ
出入口	1 生徒	①所属 普通科1年8組 ②人数 41人(男子21人、女子20人) ③特徴・ニーズ 元気が有り余っている
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 基本的な英語コミュニケーション能力と語彙 次にどこで使いますか 日々の授業はもちろん、ディベート、スピーチなどなど
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 即興型英語ディベート ” A robot dog is better than a real dog.” ②C/Eの問い 「世の中の事象に広く耳を傾け、得られた知識を議論に活かすことができたか？」 ③単元計画 (1) 初期の段階であれば、論題発表からチーム役割発表、ルールやディベートの流れの確認をした後、ブレインストーミングの時間を50分ととも良い。 (2) ディベート実践(本時) ④方法 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 実演 <input type="checkbox"/> 実習 ⑤ICT <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input checked="" type="checkbox"/> タブレット (Chrome Book)
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> Extensions (応用、活用) : 世の中の事象を広く知る姿勢をもち、それを生かしながらディベートできる。 <input type="checkbox"/> Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 論題に関する知識を決められた時間で掘り下げ、論題に活かすことができる。 <input type="checkbox"/> Ideas (知識、技能の習得) : ディベートのルールを理解できる。実践できる。 ②方法 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input type="checkbox"/> 定期考査、 <input type="checkbox"/> レポート、 <input type="checkbox"/> シート提出、 <input type="checkbox"/> 実技テスト (○○○・・・<具体的な特徴があれば記述する>)
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★☆☆ つなげる力 ★★★★★
	6 リフレクションの方法	ジャッジによる勝敗とその理由、良かった点と改善できる点やアドバイスなどを踏まえ、次への課題とする。また、チームで反省会を行い、役割分担やサインポストにどのように具体例を盛り込むか、考える。
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions (応用、活用) : 世の中の事象を広く知る姿勢をもち、ディベートに活かしながらできたか？ <input type="checkbox"/> Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 論題に関する知識を決められた時間で掘り下げ、議論に活かすことができたか？ <input type="checkbox"/> Ideas (知識、技能の習得) : ディベートのルールを理解し、実践できたか？
	8 この授業での振り返教員のリフレクション	ジャッジを行うことで、さらに議論について客観的に考える素地を養うように促す。
継続	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	TOOL3 「活性化」「例示」

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 英語 氏名

授業実施日：令和3年6月22日

本時の見せどころは、山月記を日本語に英訳した各自の訳等を chromebook で共有するところです。

視点		記述欄
科目名		コミュニケーション英語Ⅱ
出入口	1 生徒	①所属 普通科2年3組 ②人数 41人(男子16人、女子25人) ③特徴・ニーズ より深い読み取りがしたい・語彙力を高めたい
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 文法力・語彙力 英文を読む体力 次にどこで使いますか 文章の要旨や要約をまとめる
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 現代文「山月記」を英訳したもの(場面を切り取って) ②C/Eの問い 「あなたが袁傚であれば李徴にどのようなことをいうか」 「自分の心のなかに飼っている動物とはなんだと考えられるか またその理由はなにか」 「今後の自分はその動物とどのように過ごしていくのか」 「李徴の行き方についてどう思うか。自分が李徴であればどのような行動を取るべきだったのか？」 ③単元計画 ④方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実演 <input type="checkbox"/> 実習 ⑤ICT <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> タブレット <input checked="" type="checkbox"/> Chrome Book
出口・評価	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用)： 李徴や袁傚の考えや生き方を英語で表現することで、自分のこととして受け止める姿勢を育む。 <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 自分の意見を既知の文法や単語だけでなく、調べ表現する。 <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得)： 英訳された文を読み解いたり、その文法構造を理解する。 ②方法 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input type="checkbox"/> 定期考査、 <input type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> シート提出【forms】、 <input type="checkbox"/> 実技テスト
	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★☆☆ きわめる力 ★☆☆☆ つなげる力 ★★☆☆
生徒の自己評価	6 リフレクションの方法	李徴や袁傚の考えを自分の今後の生き方やあり方に英語で表現することでその後の学習につなげるような授業を意識できるか。
	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用)： 本文を通した生き方あり方を英語で表現できたか？ <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 既知の文法を利用した表現をできたか？ <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得)： 基本的な文法構造を理解できたか？
継続	8 この授業での振り返教員のリフレクション	単なる読み取りではなく、それを通した自分の意見を英語で機会を多く設けることができるのか。
	9 工夫の根拠 IDモデルに当てはめると？	ARCSモデル

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

英語

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 コミュニケーション英語Ⅲ 氏名

授業実施日：令和3年7月15日

本時の見せどころは、英文の構造をしっかりとらえるところです。

視点		記述欄
科目名		コミュニケーション英語Ⅲ
出入口	1 生徒	①所属 普通科3年1組 ②人数 45人(男子21人、女24人) ③特徴・ニーズ 授業の予習などに真面目に取り組む生徒が多いが、積極性はやや乏しい。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 複合関係詞 次にどこで使いますか 長文読解、英作文、自由英作文
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 Intensive Reading ②C/Eの問い 「2年次までに習得した文法事項を活用し、入試問題等の実践的な英文を理解し、自らの考えを英語で表現できる」 ③単元計画 (1)第11課(本時) ④方法 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実演 <input type="checkbox"/> 実習 ⑤ICT <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input checked="" type="checkbox"/> タブレット
出口・評価	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用)：英文の内容を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)：既習の文法事項を踏まえて、文構造を掴むことができる。 <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得)：語彙・文法・語法の知識を習得できる。 ②方法 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input type="checkbox"/> 定期考査、 <input type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> シート提出、 <input type="checkbox"/> 実技テスト
	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★ ★★★★★ ★★★☆
生徒の自己評価	6 リフレクションの方法	予習してきたことを授業の中で、発表・確認する。
	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用)：英文の内容・筆者の主張を読み取ることができたか？ <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)：文構造を正確に把握することができたか？ <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得)：語彙・文法・語法を確認することができたか？
継続	8 この授業での振り返教員のリフレクション	ICT 機器も活用しながら、生徒の読解を促す。
	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	TOOL3 授業計画の原則「活性化」「例示」

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

The Highlight of This Class

Subject English Name Valeria Magallan

Date: June 30, 2021 2nd period

The highlight of this lesson is seeing students use English for a creative activity. They are able to produce high quality work in a short amount of time.

View		Writing Space
Subject		English Expression
出入口	1 Students	<p>①Class 1—S (But both 1年生 and 2年生 will have done this activity)</p> <p>②number of students: 41 (male: 26, female: 15)</p> <p>③Feature and Needs of 1—S</p> <p>Students in 1-S are very good and eager to do activities. They have very good energy. However, some students have difficulty joining into groups. We just need to guide students to practice good teamwork.</p>
	2 Positioning of today's class	<p>Previously on last class</p> <p>Before this lesson, class 1-S had 一学期期末試験. They have studied (and hopefully mastered) lessons 1 - 8 from their English Expression textbook.</p> <p>Link to the next class</p> <p>Although this is mainly a self-contained lesson, after this class, students can assess which expression/communication skill they need to work on the most. Hopefully they will have had fun and will be motivated to continue studying English to better express themselves next time.</p>
contents	3 Lesson Plan	<p>①Theme</p> <p>Infomercials in English: Let's make a commercial! Let's learn the importance of gestures when we communicate.</p> <p>②Main Question "Can we make/present a commercial using English?"</p> <p>③Lesson Plan</p> <p>(1) Introduction: What is an infomercial? Show video examples. (10min)</p> <p>(2) Explain the rules of activity and give a demonstration of presentation (5 min)</p> <p>(3) Working Time: Students do a worksheet that helps them plan for their commercial presentation. The students should practice speaking and using gestures. (20min)</p> <p>(4) Presentations. Students present and listen to others' presentations. (15min)</p> <p>④Learning Methods <input checked="" type="checkbox"/>lecture <input checked="" type="checkbox"/>groupwork <input checked="" type="checkbox"/>demonstration <input type="checkbox"/>experiment</p> <p>⑤ICTtools <input type="checkbox"/>camera <input checked="" type="checkbox"/>tablet <input checked="" type="checkbox"/>projector</p> <p>Students were allowed to use their chromebooks and electronic dictionary if they needed to.</p>
	4 Teacher's evaluation	<p>①ICE Questions</p> <p><input type="checkbox"/>Ideas:</p> <p>Students can choose any object in the classroom to write a commercial for. The activity is creative, so they have many opportunities to think creatively. Creative and Critical thinking.</p> <p><input type="checkbox"/>Connections :</p> <p>Students use grammar points learned in previous classes to advertise their product.</p> <p><input type="checkbox"/>Extensions :</p> <p>The grammar points and communication skills learned by doing this project can be used in any conversation. Can gestures be useful in everyday conversation?</p> <p>②Evaluation Methods</p> <p><input type="checkbox"/>Quiz <input type="checkbox"/>Regular test <input type="checkbox"/>report <input checked="" type="checkbox"/>worksheet <input checked="" type="checkbox"/>Performance test</p> <p>(Students use a worksheet to plan their commercial and then perform</p>

			in front of the class.)
	5	Matching with education goal	<p>Thinking Ability Master Skill Applied Skill</p> <p>★★★ ★★★ ★★★</p>
S t u d e n t s S e l f -	6	Reflection	Students and teachers are usually impressed with the quality of work students can produce in just 15-20 minutes of working time. Students enjoy using English and enjoy watching their friends' presentations! It is a good opportunity to learn from each other.
	7	ICEModel	<p>□Extensions:</p> <ul style="list-style-type: none"> - I realized that they can use grammar structures that I learned in class and gestures when communicating with other people. - I learned that gestures are very important in communicating. <p>□Connections:</p> <ul style="list-style-type: none"> -I used grammar structures that I learned in class. <p>□Ideas:</p> <ul style="list-style-type: none"> -My idea was creative and unique.
T e a c h e r E v a l u a t i o n	8	Teacher's Reflection	Students are able to produce quality work in a short amount of time. I was surprised as to how funny and creative the students can be. I was really happy to see that. If we wanted a bit more refined and rehearsed presentations, it would be best to use 2 class periods instead of 1. Most students work well in their groups and play an active role in the presentation. I think it is a good project to exercise teamwork as well. Some teams were very creative! A group tried to sell oxygen! It was very good!
	9	Implemented Teaching Model ID	Tool 3: メリルのID第一原理

*Created as Kumamoto Prefectural Daini High School version based on the FD Seminar "University Class Design Inspection Worksheet" (2015) of the Japan Society for Educational Technology, with the addition of analysis using an ID model and examination of improvement plans.

The Highlight of This Class

Subject English Expression II Name Josh Fandel

Date: June 8, 2021 (6th period)

The highlight of this lesson was that students were very good at listening to the questions that I would say, and many of them got the correct answers to the questions. I think they also enjoyed working together to find the answers, and everyone got slightly more involved as time passed. It was nice to see.

View		Writing Space
Subject		English Expression II
出入口	1 Students	① Class: 2-6 (this activity was done with all 10 classes though) ② Number of students: 40 (male: 32, female: 8) ③ Feature and Needs of 2-6: There are many boys. Making groups can be difficult for girls sometimes.
	2 Positioning of today's class	Previously on last class Continuing to have classes with lessons that are self-contained but also integrate many different types of English skills (this one uses listening, reading, and a little writing/typing). Link to the next class This is the class before the Final Exams, so there is no link to the next class (ALTs don't teach anything during the weeks around testing, so the lesson after tests will be new).
contents	3 Unit Plan	① Theme Reading and understanding English in a map/guide form, and being able to answer spoken questions about the map/guide. ② Main Question Can students work together to quickly read a map in English and respond to questions about it? ③ Class Plan (1) Explain the plan for the lesson. First, give a background presentation about my university. End the presentation with introducing the number of boba shops at my university. (2) Have students get into groups of 3-5 people, and then explain that I put the map for today's activity on the google classroom for their class. They can use the digital map, and we will also pass out a printed (A3) version of the map so that they can see the whole thing. (3) They choose a person who will type the answers to the questions on their chromebooks, and that person makes a Google Doc to type their answers on. We will give students 5 minutes to read over the map in their groups and understand it (they can use dictionaries or Chromebooks). Then we start to ask them questions about the information on the map. (4) After each question, students will have one minute to talk with their group, and then they have to put type their answer in the Google Doc on their Chromebook. After one minute, each group will hold their Chromebook up so that we can see what their answer to the question is, and then we (teachers) will confirm which group(s) have the right answer and we will give them an appropriate number of points (we will write the points on the blackboard). ④ Learning Methods: <input checked="" type="checkbox"/> lecture <input checked="" type="checkbox"/> groupwork <input checked="" type="checkbox"/> demonstration <input type="checkbox"/> experiment ⑤ ICT tools: <input type="checkbox"/> camera <input checked="" type="checkbox"/> tablet <input checked="" type="checkbox"/> projector <input checked="" type="checkbox"/> Chromebooks (students)
	4 Teacher's evaluation	① ICE Questions Ideas: Understand how to read a map. Understand some slightly complex English sentences that they should be able to read with the help of their dictionaries, etc. They also need to be able to work as a team to answer the questions that we pose. They will also work on their listening ability. Connections: We are trying to read more things in class now, and they have read many passages before, so this isn't anything completely new. They just have to read very quickly. Extensions: In the future, having the ability to skim important documents and quickly find pieces of important information will be useful. ② Evaluation Methods <input type="checkbox"/> Test <input type="checkbox"/> Regular test <input type="checkbox"/> Report <input type="checkbox"/> Worksheet <input type="checkbox"/> Performance test <input checked="" type="checkbox"/> Groups of students were asked questions and then had to show their group's

Unit 11

			answers typed out on a Chromebook to the teachers. Answers were then evaluated for correctness and assigned points. Groups' points were written on the blackboard.
	5	Matching with education goal	<p>Thinking Ability Master Skill Applied Skill</p> <p>★★★★ ★★★ ★★★☆</p>
S t u d e n t s S e l f -	6	Reflection	Students that I talked to after the class said they enjoyed the activity.
	7	ICEModel	<p>Ideas: Could students understand the passages when working together to read them? Was the map easy to understand visually? Could the students work together to find the answers, or did they just rely on one person to find the answers and not work together?</p> <p>Connections: Did students make use of their previous experience with reading passages? Did they use their experience with previous group activities to make the process go more smoothly?</p> <p>Extensions: Will students be able to read short informational passages quickly in the future? Did the students understand that this could help them if they ever have to guide somebody around who doesn't speak Japanese?</p>
C E V A L U A T I O N O N C O N T I N U A T I O N	8	Teacher's Reflection	I enjoyed doing this activity with students, but I think there needed to be a better way to encourage students to not just Google Translate everything using the digital copy of the map on their Chromebooks. It would be nice if this activity could also connect to another activity that I had done. I think I would rather have done this activity before the poster-making activity that we finished the week before, as a small introduction, but I didn't think about that ahead of time.
	9	Grounds for ingenuity	ARCS Model

*Created as Kumamoto Prefectural Daini High School version based on the FD Seminar "University Class Design Inspection Worksheet" (2015) of the Japan Society for Educational Technology, with the addition of analysis using an ID model and examination of improvement plans.

The Highlight of This Class

Subject: English Name: Katelyn Sondereker

Date: January 12th, 2022, 4th period)

The highlight of this lesson was seeing students be creative with the New Year's Resolutions. Students were able to communicate their goals and motivations and share them with each other.

View		Writing Space
Subject		New Year`s Resolutions
Exit and Entrance	1 Students	① Class: 2-6 (but this activity was also done with all other 2年生 classes) ② Number of students: 40 (32 boys, 8 girls) ③ Feature and Needs of 2-6: Students in 2-6 are a little more shy than other classes but get excited about and into activities once they warm up. There are only eight girls, so the class is often very divided into girls and boys. The girls struggle to communicate with the boys (and vice versa) if it is a large group activity.
	2 Positioning of today`s class	<u>Previously on last class</u> Last class was a student self-introduction lesson, so students have interviewed each other before and know the process of asking questions to learn things about other people in the class. <u>Link to the next class</u> This is a self-contained lesson because it is also a cultural lesson, but students will practice writing, listening, and speaking which will be useful in expressing themselves in English in future lessons.
Contents	3 Unit Plan	① Theme: New Year`s Resolutions ② Main Question: What is your New Year`s Resolution? ③ Class Plan: (1) <u>Introduction (10 minutes):</u> What is the New Year`s holiday like in America? Students are given a brief introduction to New Year`s traditions in America. What are New Year`s Resolutions? Students are shown examples of New Year`s Resolutions and are reminded of the simple future grammar point (I will / I am going to). Also introduce the idea of what it means to keep New Year`s Resolutions. Give examples of New Year`s Resolutions from the ALT and the JTE. (2) <u>Explanation of Activity (2 minutes):</u> Tell students they are going to write their own New Year`s Resolutions and then make a bingo card with their classmates` New Year`s Resolutions and then play bingo. (3) <u>Writing Time (15 minutes):</u> Give them time to write their own New Year`s Resolutions. The resolutions are collected at the end of the writing time. (4) <u>Speaking Time (15 minutes):</u> Pass out the blank bingo card worksheet. Tell students they can write their resolution in one square, but they have to ask their classmates about their resolutions to fill in the rest of the bingo card. Demonstrate the activity with the JTE by asking them what their resolution is and writing it down on a bingo card drawn on the board. Students then ask each other "What`s your New Year`s Resolution" and write the responses from their classmates on the remaining 8 squares of the bingo card. (5) <u>Listening Time (8 minutes):</u> Students sit back down with their finished bingo cards. After explaining how to play bingo, the JTE and the ALT take turns reading the resolutions aloud. The students listen for the resolutions on their board and mark them with an X when they hear them. They say "BINGO" when they get three squares marked in a row and receive candy as a reward. ④ Learning Methods: <input checked="" type="checkbox"/> lecture <input checked="" type="checkbox"/> groupwork <input checked="" type="checkbox"/> demonstration <input type="checkbox"/> experiment ⑤ I C T tools: <input type="checkbox"/> camera <input checked="" type="checkbox"/> tablet <input checked="" type="checkbox"/> projector <input checked="" type="checkbox"/> chromebooks (students) <input type="checkbox"/> google classroom Students could use their electronic dictionary while writing if they needed to look up a word.

Evaluation	4	Teacher' s evaluation	<p>① I C E Questions</p> <p><input type="checkbox"/> Extensions: The students can use the ability of expressing their goals and motivations in the future. They can also use the simple future tense to talk about future plans in other situations.</p> <p><input type="checkbox"/> Connections: Students use the interviewing skills that they learned in the previous class to ask their classmates about their New Year's Resolutions.</p> <p><input type="checkbox"/> Ideas: Students can express their motivations and goals in writing and communicate them to others.</p> <p>②Evaluation Methods</p> <p><input type="checkbox"/>test, <input type="checkbox"/>Regular test, <input type="checkbox"/>Report, <input checked="" type="checkbox"/>Worksheet, <input type="checkbox"/>Performance test</p> <p>Students used a worksheet to write their New Year's Resolutions and to make their Bingo Card with their classmate's resolutions.</p>
	5	Matching with education goal	<p style="text-align: center;">Think Ability Master Skill Applied Skill</p> <p style="text-align: center;">★ ★ ★ ★ ★ ☆ ★ ★ ☆</p>
Students self Evaluation	6	Reflection	Students seemed to enjoy expressing their goals in English and getting to know the goals of their classmates. This is a well-rounded activity, since it incorporates writing, speaking, and listening in one activity.
	7	I C E Model	<p><input type="checkbox"/>Extensions: Students realized they were able to talk about future plans and goals with other students in English.</p> <p><input type="checkbox"/>Connections: They used interviewing skills that were used in the previous lesson.</p> <p><input type="checkbox"/>Ideas: Students enjoyed being creative with their goals and whether or not they think they can achieve them.</p>
Continuation	8	Teacher' s Reflection	For the writing activity, students wrote more than I expected them to and were creative with their resolutions. For the speaking activity, students needed a little encouragement at first, but would jump in and start asking once they felt comfortable. Perhaps the group speaking activity should have been more controlled, because large groups would form and some students would copy the board of other students instead of verbally asking them about their New Year's Resolutions. For 2-6 specifically, the division between boys and girls is very noticeable in group activities. The girls could not finish their bingo card because they did not feel comfortable talking to a large group of boys, so the ALT jumped in to talk with them so they could finish their bingo board. In future lessons, a more structured group activity that would help the girls and boys interact would be a good idea.
	9	Grounds ingenuity for	○ ○ ○

*Created as Kumamoto Prefectural Daini High School version based on the FD Seminar"University Class Design Inspection Worksheet"(2015) of Japan Society for Educational Technology, With the addition of analysis using an ID model and examination of improvement plans.

The Highlight of This Class

Subject English Name: Michael Henderson

Date : December 23rd, 2021 (2nd period)

The highlight of this lesson was to learn about American Christmas culture while also fostering English speaking.

View		Writing Space	
Subject		English Expression	
Exit and Entrance	1	Students	① Class: 1-4 (This activity was also done with 1-4) ② Number of students: 41 ③ Feature and Needs of 1-4:
	2	Positioning of today's class	<u>Previously on last class</u> Previously the students had been learning about relatives (関係詞) in Chapter 17 of the English Expression 1 Advanced be book, so they were able to utilize this grammar point for the card activity portion of the lesson. <u>Link to the next class</u> This was the class right before winter break, so I wanted to give a fun lesson to help nurture their interest in foreign cultures as well as give them the opportunity to improve their speaking skills and vocabulary.
Contents	3	Unit Plan	① Theme Christmas in America ② Main Question: What are Christmas Traditions in America? ③ Class Plan (1) Introduction: Explain the theme, and the first activity (PowerPoint quiz lecture) The quiz lecture features 9 questions about American Christmas culture along with 3 possible answers. Students will discuss in pairs about what they think the answer is and raise their hand to whichever answer they think is correct. (1 minute) (2) Go through the PowerPoint asking students what they think the answer is, and then explaining the correct answer along with the cultural meaning. (20 minutes) (3) Set students into groups and explain the rules of the Christmas taboo card game This game involves 4 students in a group with one person going first. This person will take a card from the card stack that contains a single Christmas related vocabulary word. The student must then explain the word to the other 3 students using English. The student that guesses correctly wins the card and will draw the next one. (3 minutes) (4) Start the game while monitoring students playing and check for any confusion with words. Wrap up the lesson when most groups are finished. (20 minutes) ④ Learning Methods <input checked="" type="checkbox"/> lecture <input checked="" type="checkbox"/> groupwork <input checked="" type="checkbox"/> demonstration <input type="checkbox"/> experiment ⑤ I C T tools : <input type="checkbox"/> camera <input type="checkbox"/> tablet <input checked="" type="checkbox"/> projector _____ <input type="checkbox"/> chromebooks(students) <input type="checkbox"/> google classroom

Evaluation	4	Teacher' s evaluation	<p>① I C E Questions</p> <p><input type="checkbox"/>Extensions : In the future, this will help students if they ever want to talk about holidays with foreign peoples. It will also help them in being more confident in their English-speaking skills, especially in front of groups, so that they can better communicate with others. This activity also helps solidify the Lesson 17 Grammar on Relatives (関係詞) that will be built upon in Lessons 18 and 19.</p> <p><input type="checkbox"/>Connections : Students will pull upon their existing knowledge of Christmas culture and compare it with the information presented in the lecture. They will also utilize this knowledge as well as the grammar points learned in the previous classes for the taboo card game.</p> <p><input type="checkbox"/>Ideas : Learn more about cultural differences between Japan and America. Create a wider worldview to become curious about other places. Be able to think of coherent English sentences on the fly when describing certain things.</p> <p>②Evaluation Methods <input type="checkbox"/>test、 <input type="checkbox"/>Regular test、 <input type="checkbox"/>Report、 <input type="checkbox"/>Worksheet、 <input checked="" type="checkbox"/>Performance test,</p>
	5	Matching with education goal	<p style="text-align: center;">Think Ability Master Skill Applied Skill</p> <p style="text-align: center;">★★★ ★★☆☆ ★★☆☆</p>
Students self Evaluation	6	Reflection	Students were laughing and had big reactions to the answers of the quiz questions. They also were quite eager and seemingly enjoyed the taboo card game.
	7	I C E Model	<p><input type="checkbox"/>Extensions Will students use the knowledge gained in this lesson when they speak with foreigners? Were they able to become more comfortable speaking English on the spot? I hope that their work in this lesson will prove useful in learning the next two chapters on 関係詞.</p> <p><input type="checkbox"/>Connections The activity utilized grammar points taught in the past as well as their previous knowledge on American culture.</p> <p><input type="checkbox"/>Ideas This activity made me realize how much students know and don't know about foreign cultures, as well as seeing how curious they are about learning about it. They also respond really well to competition games and are eager to use English during those times.</p>
Continuation	8	Teacher' s Reflection	I think overall in this activity the students were more engaged in the activities than I was expecting. I was also surprised by the things they did know and didn't know such as knowing that Christmas is for family in America but not knowing that bad children receive coal from Santa. I appreciated their reactions and excitement towards learning about the material and guessing the correct answers. I think going forward it would be fun to make it even more competitive and incorporate a group point system so they can battle against each other. As for the taboo card game activity, students also had a lot of fun playing this as well. There was some trouble with them not understanding certain vocabulary words (such as candy cane) so I think I need to be a little more careful to make sure they will know all the words presented to them.
	9	Grounds for ingenuity	ARCS Model

※Created as Kumamoto Prefectural Daini High School version based on the FD Seminar"University Class Design Inspection Worksheet"(2015) of Japan Society for Educational Technology, With the addition of analysis using an ID model and examination of improvement plans.

教科：[英語] / 科目名：[英語表現 I / 科学英語] / [1]学年対象・[2]単位	
出題する考査	[2]学期[期末]考査
該当する単元等	動名詞、不定詞、分詞
出題意図 (レベル)	I、C、Eフェーズ
【X】健康を維持する(stay healthy)ために必要なことについて、15～25語の英文で自分の考えを述べなさい。ただし、ピリオド(.)やコンマ(,)は語数に数えない。	
採点基準 (配点)	<p>既習の文法事項を活用し(不定詞の副詞用法(目的)など)、健康を維持するために自分が必要だと思うことについて記述する問題。一般的に健康維持のために良いことを述べるだけでなく、自分の生活を顧みながら自分に必要なことまで思いを馳せるような問にした。</p> <p>〈採点基準〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語数制限を満たし、設問の解答として適切であれば3点 ・10語以上15語未満のものは2点、10語未満は0点 ・設問の解答として適切でないものは0点、説明が不十分なものは-1点 ・文法や綴りミスなどが1つあれば-1点 ・文法や綴りミスなどが2つあれば-2点 ・文法や綴りミスなどが3つ以上あれば-3点
備考	

>

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 家庭 氏名 _____

授業実施日：令和3年7月2日

本時の見せどころは、Jamboardを6人で同時に書き込みするブレインライティングでアイデアを共有し、ホームプロジェクトのテーマ決定へつなげるところです。

視点		記述欄						
科目名		家庭基礎						
出入口	1 生徒	①所属 普通科1年8組 ②人数 41人(男子21人、女子20人) ③特徴・ニーズ 興味津々な態度で発言し、しっかり思考する生徒にリードされている意欲的な雰囲気があります。						
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか ホームプロジェクトという学習方法を知っていること。およびChromebookの基本的な操作がスムーズにできることです。 次にどこで使いますか 冬課題の2回目ホームプロジェクトにおいて一層よい取組にし、家族の課題解決に生かします。						
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 家庭での問題を見つけて、家族に貢献しよう ②C/Eの問い 「家族の生活をよくするために貢献することとは？」 ③単元計画 (1) ホームプロジェクトテーマ設定(本時1h) (2) 題目設定の理由と計画概要の提出(classroomへ提出) (3) 家庭実践 (4) 「HP振り返りチャート」を用いて振り返りとペアで共有(2h) ④方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実演 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 ⑤ICT <input checked="" type="checkbox"/> 実物投影機 <input checked="" type="checkbox"/> タブレット <input checked="" type="checkbox"/> chromebook (アプリJamboard、classroom)						
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> Extensions (応用、活用)： 家族の生活をよくするために自分が貢献することを提案できる。 <input type="checkbox"/> Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 感染予防に留意し、家族のニーズに沿った実践を計画できる。 家族とコミュニケーションを図りながら進行できる。 <input type="checkbox"/> Ideas (知識、技能の習得)： 家族のニーズが解決できる。 ②方法 <input checked="" type="checkbox"/> 定期考査、 <input type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> 作品提出、 <input checked="" type="checkbox"/> 実技テスト <input checked="" type="checkbox"/> Jamboardのファイル提出とドキュメントでのレポート提出						
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	<table style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>みつめる力</td> <td>きわめる力</td> <td>つなげる力</td> </tr> <tr> <td>★★☆</td> <td>★☆☆</td> <td>★★★</td> </tr> </table>	みつめる力	きわめる力	つなげる力	★★☆	★☆☆	★★★
	みつめる力	きわめる力	つなげる力					
★★☆	★☆☆	★★★						
6 リフレクションの方法	「HP振り返りチャート」の作成と、その取組みを振り返る「振り返りのたまご」を作成する。ペアで紹介しあう。							
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions (応用、活用)： 家族の生活をよくするために、自分が貢献することを提案できたか？ <input type="checkbox"/> Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 感染予防に留意し家族のニーズに沿った実践の計画ができたか？ 家族とのコミュニケーションが充実できたか？ <input type="checkbox"/> Ideas (知識、技能の習得)： 家族のニーズが解決できたか？						
	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	生活の場面でプロセスを楽しむことにつなげることができたか？ 自分でコントロールすることができたか？						
継続	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	ARCSモデル 関連性(R-2) 自分の得意な、やりやすい方法やペースで学ぶようにする 自信(C-3) やり方を自分で決め、「自分が努力したから成功した」と言えるようにする。						

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 家庭 氏名 _____

本時の見せどころは、2人のALTの先生へ英語で「親子丼」を紹介すること、また即興で質問につなげるところです。

授業実施日：令和3年12月6日

視点		記述欄
科目名		科学家庭
出入口	1 生徒	①所属 理数科1年 ②人数 40人(男子26人、女子14人) ③特徴・ニーズ 興味津々な態度で発言し、しっかり思考する生徒にリードされている意欲的な雰囲気があります。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 「英語の普段使い」できることです。 次にどこで使いますか 冬課題の2回目ホームプロジェクトにおいて一層よい取組にし、家族の課題解決に生かします。
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 家庭実践で取得した和食の調理を、英語で紹介しよう ②C/Eの問い 「和食の魅力とは？」 ③単元計画 (1) レシピを読み、親子丼等の作り方説明動画を視聴する。実習計画表をJamboardで作成する。(classroomへ提出)(1h) (2) 【家庭実習】実習記録(スライド)説明動画を作成する。(classroom提出) (3) 英語での説明を考え、ペアで共有する。(1h) (4) ALTへ英語で紹介する。(本時1h) ④方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実演 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 ⑤ICT <input checked="" type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> タブレット <input checked="" type="checkbox"/> chromebook (Jamboard、classroom、ドキュメント)
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> Extensions (応用、活用)： 和食文化の魅力をALTへ提案できる。 <input type="checkbox"/> Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 聞き手が聞きたくなるような工夫ができる。 <input type="checkbox"/> Ideas (知識、技能の習得)： 和食の魅力を説明できる。 ②方法 <input checked="" type="checkbox"/> 定期考査 <input checked="" type="checkbox"/> Jamboardでの実習記録・実習計画表提出 <input checked="" type="checkbox"/> 動画ファイル提出と <input checked="" type="checkbox"/> ドキュメントでのレポート提出
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★☆ ★☆☆ ★★★
	6 リフレクションの方法	「振り返りのたまご」を作成し、ペアで紹介しあう。
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions (応用、活用)： 和食文化の魅力をALTへ提案できたか？ <input type="checkbox"/> Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 聞き手が聞きたくなるような工夫ができたか？ <input type="checkbox"/> Ideas (知識、技能の習得)： 家族のニーズが解決できたか？
	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	英語の普段使いを意識することができたか？ 即興質問に答えることができたか？
継続	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	ARCSモデル 自信(C-1) ゴールインテープをはる 努力する前にゴールを決め、どこに向かって努力するのかを意識する。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

家庭

教科：[家庭] / 科目名：[科学家庭] / [1] 学年対象・[2] 単位											
出題する考査	[2] 学期 [期末] 考査										
該当する単元等	食生活領域										
出題意図 (レベル)	【C】 (1) Cフェーズ (2) Iフェーズ (3) Eフェーズ										
<p>【C】 2学期の調理実習では、「自分自身の自立へ向けた努力を家庭で」をテーマに親子丼等の家庭実習を課題にしました。次の2つの問題に取り組みましょう。</p> <p>(1) 「親子丼」は、鶏肉と鶏卵が親子の関係です。スーパー等で買える食材で、他の組み合わせの「親子の丼」を作りたいと思います。組み合わせを2組答えてください。</p> <table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>素材の名称を示している</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>違う組み合わせ例を2つ示している</td> </tr> </table> <p>(2) 「魚と三つ葉のお吸い物」の下ごしらえで、魚に塩を振りました。 ア、この操作を何と言いますか？調理用語で答えましょう。 イ、塩の役割を2つ答えましょう。</p> <p>(3) 課題として、作り方動画を1分程度で作ってもらいました。新しいALTのマイケル先生に説明してみよう。“こんな食べ物なのか！食べてみたい！”という気持ちになるように説明しましょう。今回の解答には日本語で書いてもらいますが、マイケル先生へは英語で紹介してもらいます。日本語 200 字以上でまとめてみましょう。(4～5文は必要ですね。) 3品すべてでも、1品に特化してもかまいません。食べ方のマナーを含んでもOKです。</p> <table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>項目を複数挙げている</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>「食べてみたい！」と思わせる調理操作を予想し、示している。 自分が作ったことが紹介に含まれている。</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>わくわくして食べてみたくなる紹介である</td> </tr> </table>		I	素材の名称を示している	C	違う組み合わせ例を2つ示している	I	項目を複数挙げている	C	「食べてみたい！」と思わせる調理操作を予想し、示している。 自分が作ったことが紹介に含まれている。	E	わくわくして食べてみたくなる紹介である
I	素材の名称を示している										
C	違う組み合わせ例を2つ示している										
I	項目を複数挙げている										
C	「食べてみたい！」と思わせる調理操作を予想し、示している。 自分が作ったことが紹介に含まれている。										
E	わくわくして食べてみたくなる紹介である										
採点基準 (配点)	<p>【C】 (1) I：食材の名称を示している C：違う組み合わせ例を2組示している</p> <p>(2) (ア) ふり塩 (イ) 浸透圧で魚の水分とともに臭みが浮き出す 塩は魚の旨味を中に閉じ込めてくれる蓋になる味をつける</p> <p>(3) I：工夫の項目を3点以上挙げている C：調理工程の中で「できそう！」と思える操作を予想し、示している。 作成する1年生の立場を考慮している E：家庭実習と動画作成に、わくわくしてチャレンジしたくなる提案である</p>										
備考	<p>考査前の指導で、</p> <p>①授業で動画を視聴後、段取りを考える実習計画表を作成</p> <p>②家庭実習を行い、紹介動画を作成する課題 を行っている。</p> <p>考査後は、ALTの先生へ英語で紹介を実施した。</p>										

教科：[家庭] / 科目名：[家庭基礎] / [1] 学年対象・[2] 単位																			
出題する考查	[1] 学期 [期末] 考查																		
該当する単元等	家族領域・衣生活領域																		
出題意図 (レベル)	Eフェーズ この考查までの指導の中で、SDG s の英語表現とにほんごプロセスなど参考になることを含めて記述をお願いします。																		
<p>問題 8 家庭科は SDG s が目標に掲げるすべてのことを学び、実践していく教科です。</p> <p>1 学期に学んだ</p> <p>(1) 家族領域 (2) 衣生活領域</p> <p>について、それら SDG s 「世界を変えるための 17 の目標」に比較的近くつながっていると考える項目を考えてみましょう。その組み合わせとして適するものを①～⑩から選んでマークしましょう。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>目標 1 貧困をなくそう</td> <td>目標 10 人や国の不平等をなくそう</td> </tr> <tr> <td>目標 2 飢餓をゼロに</td> <td>目標 11 住み続けられるまちづくりを</td> </tr> <tr> <td>目標 3 すべての人に健康と福祉を</td> <td>目標 12 つくる責任つかう責任</td> </tr> <tr> <td>目標 4 質の高い教育をみんなに</td> <td>目標 13 気候変動に具体的な対策を</td> </tr> <tr> <td>目標 5 ジェンダー平等を実現しよう</td> <td>目標 14 海の豊かさを守ろう</td> </tr> <tr> <td>目標 6 安全な水とトイレを世界中に</td> <td>目標 15 陸の豊かさを守ろう</td> </tr> <tr> <td>目標 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</td> <td>目標 16 平和と公正をすべての人に</td> </tr> <tr> <td>目標 8 働きがいも経済成長も</td> <td>目標 17 パートナースHIPで目標を達成しよう</td> </tr> <tr> <td>目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう</td> <td></td> </tr> </table> <p><選択肢> ①目標 3 ②目標 3・9 ③目標 5 ④目標 3・9・12 ⑤目標 3・4・5 ⑥目標 7・8・11・12 ⑦目標 3・9・12・14 ⑧目標 3・4・5・7・8・11・12 ⑨目標 3・4・5・7・8・11・12・14 ⑩目標 3・4・5・7・8・11・12・14・15</p>		目標 1 貧困をなくそう	目標 10 人や国の不平等をなくそう	目標 2 飢餓をゼロに	目標 11 住み続けられるまちづくりを	目標 3 すべての人に健康と福祉を	目標 12 つくる責任つかう責任	目標 4 質の高い教育をみんなに	目標 13 気候変動に具体的な対策を	目標 5 ジェンダー平等を実現しよう	目標 14 海の豊かさを守ろう	目標 6 安全な水とトイレを世界中に	目標 15 陸の豊かさを守ろう	目標 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	目標 16 平和と公正をすべての人に	目標 8 働きがいも経済成長も	目標 17 パートナースHIPで目標を達成しよう	目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	
目標 1 貧困をなくそう	目標 10 人や国の不平等をなくそう																		
目標 2 飢餓をゼロに	目標 11 住み続けられるまちづくりを																		
目標 3 すべての人に健康と福祉を	目標 12 つくる責任つかう責任																		
目標 4 質の高い教育をみんなに	目標 13 気候変動に具体的な対策を																		
目標 5 ジェンダー平等を実現しよう	目標 14 海の豊かさを守ろう																		
目標 6 安全な水とトイレを世界中に	目標 15 陸の豊かさを守ろう																		
目標 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	目標 16 平和と公正をすべての人に																		
目標 8 働きがいも経済成長も	目標 17 パートナースHIPで目標を達成しよう																		
目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう																			
採点基準 (配点)	1 問 2 点																		
備考	事前の授業内で、17 の目標の英語と日本語訳を結びつける取組を行い、被服領域の授業で制作した「あずま袋」 正答率は、(1) 8% (2) 10%であった。 答案返却の授業において、グループで検討する場面を設け、共有を図った。																		

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 探究

授業実施期間：令和3年5月～10月7日

本取り組みの見せどころは・・・自分の学びを捉え直し「自分の学びをデザインできるようになること」を目指します。

視点		記述欄
科目名		GR I (進路研究・学び方を学ぶ【学習設計マニュアルを使った取組】)
出入口	1 生徒	①所属 普通科1年 ②人数 328人(男子182人、女子146人) ③特徴・ニーズ 一人1台端末の活用により、感染防止の配慮がしやすくなり、内容の共有も充実してきている。
	2 授業の位置づけ	<u>以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか</u> 本を使って「自分の学びと向き合う」取り組みを経て、自らの学びに生かしている。こうしている。(生かしている部分があるか振り返る。) <u>次にどこで使いますか</u> 今後のGRの授業理解をスパイラルアップさせ深めていく。
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 ②C/Eの問い「あなたにとって『学び方を』って何？」 ③単元計画 (1)学習設計マニュアル第1・2章を読み、ワークに取り組む。ドキュメントにまとめてclassroomに提出する。 (2)パラグラフライティングを知り、練習問題に取り組む。(1) (3)第3, 4, 5, 16章を読み、内容要約をパラグラフライティングによって記述する。(4) (4)オープンキャンパスに向けての取組と参加後の共有(1) (5)学習設計マニュアルの取組の振り返りと、その振り返りの共有(1) (6)主体的な学びフォーラム:第二高校キャリアパスポートの取組。(1) *熊本大学教授鈴木克明先生による学びのまとめと質問交流 *学び方を学ぶ前提となる考え方・同意できますか?に取り組む。 *ICEモデルのチェックリスト付きポートフォリオの記述 (7)振り返りリフレクションの共有 ④方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実演 <input type="checkbox"/> 実習 ⑤ICT <input checked="" type="checkbox"/> 実物投影機 <input checked="" type="checkbox"/> meet <input checked="" type="checkbox"/> zoom <input checked="" type="checkbox"/> classroom
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると? <input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用): 自己調整学習者さらには共調整学習者へと成長を目指すことができる。 <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク): 自分の学習に取り入れた工夫をメタ認知できる。 <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得): 学び方を学ぶ前提となる考え方を知る。 パラグラフライティングの方法を知り、使うことができる。 ②方法 <input checked="" type="checkbox"/> ドキュメント、 <input checked="" type="checkbox"/> classroom 投稿
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★ ★★★★★ ★★★★★
	6 リフレクションの方法	毎時間パラグラフライティングで要約を記述→classroomに投稿する。 振り返りのリフレクション通信を読む。
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions(応用、活用): 自己調整学習者さらには共調整学習者へと成長を目指すことができたか? <input type="checkbox"/> Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク): 自分の学習に取り入れた工夫をメタ認知できたか? <input type="checkbox"/> Ideas(知識、技能の習得): 学び方を学ぶ前提となる考え方を知ったか? パラグラフライティングの方法を知り、使うことができたか?
	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	要約記述をclassroomでルーブリック評価(すぐに返却しフィードバック) 振り返りリフレクション通信で、他の生徒との情報共有を図る。(今年度は昨年とのリフレクション通信を活用。)
継続	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると?	ARCSモデル(C-2)一歩ずつ確かめさせて進ませる。 過去の自分とのひkアクで進歩を確認させる。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 探究

授業実施期間：令和3年9月9日～12月23日

本取り組みの見せどころは・・・評価の全体構造が「一枚ポートフォリオ評価」スタイルになっているところです。

視点		記述欄
科目名		グローバルリサーチ (GR)
出入口	1 生徒	①所属 普通科1年 ②人数 328人 (男子182人、女子146人) ③特徴・ニーズ 一人1台端末の活用により、感染防止の配慮がしやすくなり、内容の共有も充実してきている。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 家庭基礎ホームプロジェクトの取組「See→Plan→Do→See→・・・」の 取り組み方。 次にどこで使いますか 2年GRにおいてテーマ研究で、再度個人研究に取り組みます。
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 ミニテーマ研究 ②C/Eの問い 「あなたにとって『みつめる』『きわめる』『つなげる』って何？」 ③単元計画 (1) 研究の進め方ガイダンス (0.5) (2) C/Eの問いについて、学習前の自分の状態で記述する (0.5) (3) マンダラートを使って自分の興味のありかを教科を切り口に深く探る (0.5) (4) 仮説の設定・仮説の検証方法検討・仮説検証 (実験、調査等) (3) (5) クラス内中間発表会 (全体性のたまごを使う) (1) (6) ポスター作成 (3) (7) クラス内グループ発表会 (10人を選出) (8) クラス内代表者発表会 (1人を選出) (9) 学年代表者発表会 (計9人が発表) (10) ミニテーマ研究振り返り (振り返りチャートを使う) ④方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実演 <input type="checkbox"/> 実習 ⑤ICT <input checked="" type="checkbox"/> 実物投影機 <input checked="" type="checkbox"/> meet <input checked="" type="checkbox"/> zoom <input checked="" type="checkbox"/> classroom
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> Extensions (応用、活用) : 自分自身の興味を探り続ける。 <input type="checkbox"/> Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 仮説に関して必要な知識・概念を柔軟に広げつなげる。 <input type="checkbox"/> Ideas (知識、技能の習得) : 単時間毎に行ったことの振り返りを「振り返りのたまご」で振り返る。 ②方法 <input type="checkbox"/> 振り返りのたまごシート作成、 <input type="checkbox"/> classroom 投稿
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★★★ きわめる力 ★★★★★ つなげる力 ★★★★★
	6 リフレクションの方法	毎時間の終了時に「振り返りのたまご」を作成→Classiに投稿する テーマ研究の終了時に「振り返りチャート」をふせんと使い作成する
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions (応用、活用) : 自分の好き (興味) を探し続けられたか？ <input type="checkbox"/> Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 自分の興味、研究を進めているプロセスにつなげることができたか？ <input type="checkbox"/> Ideas (知識、技能の習得) : 単時間毎に行ったことの振り返りができたか？
	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	【学習前記述+毎時振り返りのたまご作成・投稿+学習後記録】という形式のポートフォリオ評価
継続	9 工夫の根拠 IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのIDの第一原理「問題」 個人でテーマ設定する

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

探究

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 GR・ASⅡ 氏名 _____

授業実施日：令和2年12月8日

本時の見せどころは・・・
オンラインでのテーマ研究発表

視点		記述欄
科目名		GR・ASⅡ
出入口	1 生徒	①所属 普通科、理数科、美術科全員 ②特徴・ニーズ 探究活動には好意的。プレゼンテーションやグループワークも協力的である。活動や質にまだ差がある。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 目的、仮設、検証、考察の流れ 次にどこで使いますか ①この論文を情報で Google を利用し、文書ソフトとプレゼンテーションソフトでデジタル化し、外部に発表できる体裁に整える。 ②入試、大学でのレポート、論文、研究、就職してからのプレゼン。
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①、②題材、C/Eの問い 「テーマ研究を論文にしよう！」 ③単元計画 (1) テーマ研究設定 (1年次の継続研究及び新しい研究テーマの設定) (5月) (2) マンダラートを利用したテーマ研究の設定 (5月) (3) テーマ研究及びテーマ研究の論文化(5~11月) (4) テーマ研究の発表・論文化【800字前後にまとめる】(12月) ④方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実演 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 ⑤ICT <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input checked="" type="checkbox"/> タブレット (Google Chrome Book)
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ <input type="checkbox"/> Extensions (応用、活用)： 表現⇔分析・検証を繰り返すことで、自分の考えを概念化しているか？ <input type="checkbox"/> Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 社会や学問的な発展につなげているか？ <input type="checkbox"/> Ideas (知識、技能の習得)： 自分の考えを汎用性の高いフォーマットにリメイクできているか？ ②方法 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input type="checkbox"/> 定期考査、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> シート提出、 <input type="checkbox"/> 実技テスト
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ☆☆☆ ★★★★★ ★★★★★
生徒の自己評価	6 リフレクションの方法	デジタル化した論文をスライドに変えてオンラインにて発表し共有する。
	7 ICEモデルに当てはめると ※テーマ研究下書き(ポスター)の自己評価で関連する部分	<input type="checkbox"/> Extensions (応用、活用)： 先行研究から発展した内容になっているか？ <input type="checkbox"/> Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 研究目的は社会や学問的な発展性があるか？ <input type="checkbox"/> Ideas (知識、技能の習得)： 論旨・序論・結論の流れの一貫性があるか？
継続	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	①生徒が書いたものを二高ICEモデルに基づいて評価する。 ②SSHアンケートの生徒記述内容を学年会で共有する。
	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	TOOL 1 ARCSモデル：注意 (Attention) A-2 好奇心を大切に オンラインでの発表を自分の希望により視聴することを通し、なぜだろうという疑問や驚き、自分と異なる考えを大切にしながら、追及させる。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 GR・ASⅢ 氏名 _____

本時の見せどころは・・・
All English をカジュアルに

授業実施日：令和3年5月12日

視点		記述欄
科目名		GR・ASⅢ
出入口	1 生徒	①所属 普通科、美術科 ②特徴・ニーズ 探究活動には好意的。プレゼンテーションやグループワークも協力的である。英作文に苦手意識がある生徒も。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 目的、仮設、検証、考察の流れ、英作文 次にどこで使いますか ① 2学期小論文で自分の考えを端的にまとめる力として活用する。 ②入試、大学でのレポート、論文、研究、就職してからのプレゼン。
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	① 題材「テーマ研究の要約を英語で作成する。」 ② C/Eの問い「英語で考えをまとめよう」 ③単元計画 (1) レクチャー「自分のキャッチフレーズを作ろう」 (2) 日本語を整理 (3) 翻訳 (英語教員以外も対応できるよう、教えあい、翻訳機能も活用) × 2回 (4) 相互評価 (スピーキング) ④方法 □講義 □演習 ■グループワーク □実演 ■実習 ⑤ICT □実物投影機 ■タブレット (Google Chrome Book)
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ □Extensions (応用、活用)： 表現⇔英訳することで、自分の考えを概念化しているか？ □Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 文化の違いに気づき、表現につなげているか？ □Ideas (知識、技能の習得)： 自分が探究したことを的確に表現できたか？ ②方法 □小テスト、□定期考査、■レポート、■シート提出、□実技テスト
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★☆☆ きわめる力 ★★☆☆ つなげる力 ★★★
	6 リフレクションの方法	相互評価、自己評価を forms にまとめる。 Classi に英文と感想を投稿する。
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると ※テーマ研究下書き(ポスター)の自己評価で関連する部分	□Extensions (応用、活用)： 探究を通して自分の学び方や、個性を理解できた □Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 相互評価を通して、グループ活動に貢献できた □Ideas (知識、技能の習得)： 2年次の探究を振り返り、論旨の一貫性のある文章に表現できた。
	8 この授業での振り返り 教員のリフレクション	①生徒が書いたものを二高ICEモデルに基づいて評価する。 ②SSHアンケートの生徒記述内容を学年会で共有する。
継続	9 工夫の根拠 IDモデルに当てはめると？	TOOL1 ARCSモデル

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 探究 氏名 _____

授業実施日：令和 3年11月16日

本時の見せどころは・・・

生徒自身が仮説を立て、実験方法を考え、結果・考察をするという探究の過程を体感する！

視点		記述欄
科目名		SSI
出入口	1 生徒	①所属 理数科1年S組 ②人数 40人(男子26人、女子14人) ③特徴・ニーズ 探究活動を楽しみにしている。積極性もある。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか アセチレンと空気混合燃焼実験(演示実験)で、炎の輝きと燃焼の様子が関与していること。 次にどこで使いますか SSIの課題研究における課題発見、仮説検証、考察
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法(C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 実験を通してろうソクの輝きのしくみを根拠立てて説明する。 ②C/Eの問い 「ろうソクの炎が輝いている原因を追究しよう！」 ③単元計画 (1) アセチレンと空気混合燃焼実験とその考察 (2) ろうソクの炎の観察、仮説設定のための実験 (3) ろうソクの輝きの仕組みについて仮説を立て実験を根拠に説明し、クラス全員でディスカッション (4) ディスカッションをもとに再度実験を行い、ろうソクの輝く仕組みをレポートにまとめる。(本時) ④方法 ■講義 □演習 ■グループワーク ■実演 ■実習 ⑤ICT □実物投影機 ■タブレット □
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ □Extensions(応用、活用)： 自身で考案した複数の実験等を根拠に実験結果を考察し、他者へ説明できる。ろうソクの炎の輝きが内炎に存在するススであることを実験をもとに証明できる。 □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 自身で考案した実験結果の考察に基づき、新たな仮説を立てることができる。炎の輝きの原因がススであることに気づくことができる。 □Ideas(知識、技能の習得)： 自身で仮説を立て、その仮説を検証するための実験を行っている。 ②方法 □小テスト、□定期考査、■レポート、□シート提出、□実技テスト
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★☆☆ きわめる力 ★★★★★ つなげる力 ★★★☆☆
	6 リフレクションの方法	グループ活動で自身の仮説、実験内容、結果を発表し、質疑により仮説検証能力を深める。
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	□Extensions(応用、活用)：自身で考案した複数の実験等を根拠に実験結果を考察し、他者へ説明できたか？ろうソクの炎の輝きが内炎に存在するススであることを実験をもとに証明できたか？ □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)：自身で考案した実験結果の考察に基づき、新たな仮説を立てることができる。炎の輝きの原因がススであることに気づくことができたか？ □Ideas(知識、技能の習得)：自身で仮説を立て、その仮説を検証するための実験を行っているか？
	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	ディスカッションでなされた質問内容、その応答、レポートによる検証
継続	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	T003 メリルのID第一原理 活性化：既に知っている知識を動員する。 応用：応用するチャンスがある。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 探究 氏名 _____

授業実施日：令和 3年10月20日

本時の見せどころは・・・

6月以降、取り組んできた課題研究（グループ）の中間発表会です。課題発見能力～考察・分析力まで多様な力をみとることができます。

視点		記述欄
科目名		スーパーサイエンス (SS) II
出入口	1 生徒	①所属 理数科2年S組 ②人数 42人(男子32人、女子10人) ③特徴・ニーズ 探究心が旺盛であり、熱心に課題研究に取り組むことができる
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか SS Iで身につけた課題発見の方法、探究の手法 次にどこで使いますか 大学生や社会人となって、課題解決が必要となるあらゆる場面で活用
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 課題を発見し、その課題を解決するための手法や検証方法について考え、実践をする。自身の研究を他者へ伝えるよう表現力を育成する。 ②C/Eの問い 「自身の課題研究テーマを解決するためには??」 ③単元計画 (1) 研究テーマの設定 (2) 先行研究調査 (3) 実験方法等の検討、実験、実験結果の検証(本時) (4) 研究結果のまとめ、プレゼン資料作成、プレゼン ④方法 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 実演 <input checked="" type="checkbox"/> 実験 ⑤ICT <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input checked="" type="checkbox"/> タブレット <input type="checkbox"/> _____
出口・評価	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると? <input type="checkbox"/> Extensions (応用、活用): 課題解決に向けてねばり強く探究することができる <input type="checkbox"/> Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク): 発見した課題が世の中にどのように有益かリンクできる。 <input type="checkbox"/> Ideas (知識、技能の習得): 課題研究に必要な知識を収集できる 上記に加え「二高ICEモデル」を用いたルーブリック評価に基づく。 ②方法 <input type="checkbox"/> 小テスト、 <input type="checkbox"/> 定期考査、 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、 <input checked="" type="checkbox"/> シート提出、 <input type="checkbox"/> 実技テスト (<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション)
	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★ ★★★ ★★★
生徒の自己評価	6 リフレクションの方法	プレゼンテーションを「二高ICEモデル」のルーブリックを使い相互評価する。
	7 ICEモデルに当てはめると	<input type="checkbox"/> Extensions (応用、活用): 課題解決に向けてねばり強く探究することができたか? <input type="checkbox"/> Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク): 発見した課題が世の中にどのように有益かリンクできたか? <input type="checkbox"/> Ideas (知識、技能の習得): 課題研究に必要な知識を収集できたか?
継続	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	プレゼンテーションを一層よくすることによって、課題解決を提案できたか?
	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると?	ARCSモデル(C-2) 一歩ずつ確かめて進ませる 過去の自分との比較で進歩を確認させる

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

5 第二高校キャリア・パスポートの取組

本校で行っている「授業振り返り」は、これまでの「授業評価」とは視点が違う・変える必要があると伝えるために名称に工夫が加えられています。令和元年度に、「授業評価」の項目に「ID/ICE」を盛り込む工夫をし、生徒の学び方を支援することにつながるよう編集しなおしました。タイトルを『生徒主体の学びのデザイン』がなされているかを問う「授業振り返り」として実施を2年続けましたが、令和3年度から【授業振り返り～「自分の学び」と「授業のデザイン」】と名前を呼びやすくし、生徒の google classroom へ google forms で配信し、実施することにしました。

さて、特別活動を要としたキャリア教育実践のための効果的ツールに、「キャリア・パスポート」があります。2020年度スタートの「キャリア・パスポート」の目的は、以下の通りです。

小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐもの。教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

そこで、第二高校では、「第二高校キャリア・パスポート」を以下の通り定義しました。

- ① ICE視点のチェックリスト付ポートフォリオ記述活動
- ②授業振り返り～「自分の学び」と「授業デザイン」～
- ③「学び方を学ぶ」ための前提となる考え方：同意できますか？

①について

2・3年生は classi のポートフォリオ機能内の「ストーリー」を活用した記述を実施しています。1年生については、説明スライド（後掲）を classroom に閲覧で配信し、ドキュメントで作成したフォームに書き込む形で実施します。

②について

「授業振り返り」の趣旨説明を1年生へ配付し、取組を始めます。1年生へ配付予定のスライドの forms のスクリーンショットのように、各クラスの HR の classroom へ forms を配信していただく形で、生徒が取り組みます。教務部から配信クラス（担当クラス）の提案があります。

③について

職員対象に実施している「IDの前提」の生徒向け版です。GR・ASの本「学習設計マニュアル」を使った取組の一環として実施します。